広島市子どもの生活に関する実態調査
報告書（概要版）

広島市こども未来局

目　　次

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2　生活困難度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

⑴　生活困難度の分類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

⑵　生活困難度別の割合 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅱ　生活困難の状況

1　家計の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

⑴　食料が買えなかった経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

⑵　衣類が買えなかった経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2　子どもの生活水準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

⑴　所有物の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

⑵　子どもへの支出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅲ　子どもの学び

1　成績の主観的評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2　授業の理解や学習の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

⑴　授業の理解度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

⑵　授業がわからなくなった時期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

⑶　勉強を教えてもらう人 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

3　学校外での学習･勉強の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

⑴　学校外での勉強時間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

⑵　学習塾･家庭教師の利用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4　将来の進学希望 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

5　子どもに受けさせたい教育 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

Ⅳ　子どもの日常生活

1　平日の食事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

⑴　平日の朝食の摂取状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

⑵　平日に朝食を一緒にとる人 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

2　平日の放課後を過ごす場所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

3　活動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

⑴　運動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

⑵　就寝･起床時刻 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

⑶　歯磨き･入浴の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

Ⅴ　子どもの健康と自己肯定感

1　子どもの健康状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

⑴　健康状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

⑵　医療機関受診抑制の経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

2　自己肯定感等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

⑴　自己肯定感 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

⑵　将来の夢やつきたい職業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

Ⅵ　子育てと各種制度・サービス
1　就学援助 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
2　子どもとのかかわりの頻度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
3　子育て上の経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4　制度・サービスの利用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
⑴　各種支援制度の利用経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
⑵　各種経済的支援制度の利用経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
⑶　公的相談機関等の利用経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
Ⅶ　保護者の状況
1　婚姻状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
2　健康状態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
3　平日の朝食の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
⑴　平日に朝食をとる頻度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
⑵　平日に朝食を一緒にとる人 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
4　成人するまでの経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
⑴　15歳の頃の暮らし向き ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
⑵　成人するまでの体験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的等

区　　分		小学５年生	中学２年生
目　　的		広島市では、すべての子どもが健やかに育つための環境づくりにむけ、子どもの貧困の問題に対する施策を検討するため、広島県と連携して、本市の子どもの生活実態や学習環境等について調査しました。	
調 査 対 象 者		小学５年生及びその保護者	中学２年生及びその保護者
調査対象者数	子ども	4,000 人	4,000 人
	保護者	4,000 人	4,000 人
有効回答数（回答率）	子ども	1,313 人（32.8%）	1,274 人（31.9%）
	保護者	1,320 人（33.0%）	1,289 人（32.2%）
調　査　方　法		無作為抽出・無記名・密封・郵送	
調　査　時　期		平成 29 年 7 月	

2　生活困難度

(1)　生活困難度の分類

本調査では、子どもの生活困難度を、世帯の所得額だけでなく家庭環境全体で把握するため、①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如の３つの要素に基づいて、次ページのとおり分類しました。

① 低所得

等価世帯所得(※1)が、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される基準(※2)未満の世帯(※3)

※1　世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2　厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」（所得は平成 27 年値）の世帯所得の中央値(428 万円)を平均世帯人数(2.47 人)の平方根で除した値の 50%である 136.2 万円

※3　低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」で公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較できるものではない。

② 家計の逼迫

経済的な理由で、公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など 7 項目のうち、1 つ以上該当

1　電話料金
2　電気料金
3　ガス料金
4　水道料金
5　家賃
6　家族が必要とする食料
7　家族が必要とする衣類

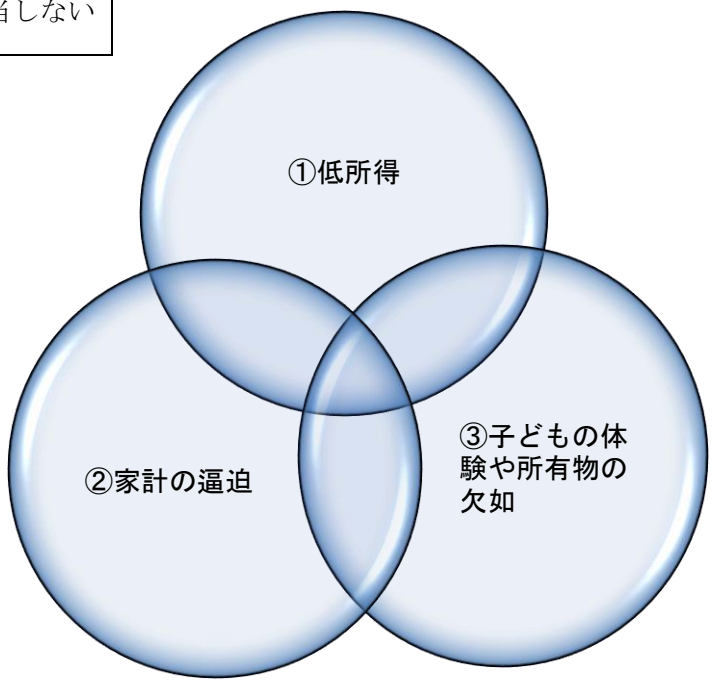
③　子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物などの 15 項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が 3 つ以上該当

1　海水浴に行く
2　博物館・科学館・美術館などに行く
3　キャンプやバーベキューに行く
4　スポーツ観戦や劇場に行く
5　遊園地やテーマパークに行く
6　毎月お小遣いを渡す
7　毎年新しい洋服・靴を買う
8　習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる
9　学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう）
10　お誕生日のお祝いをする
11　１年に１回くらい家族旅行に行く
12　クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
13　子どもの年齢に合った本
14　子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
15　子どもが自宅で宿題をすることができる場所

【生活困難度の分類】

生活困難層		生活困窮層＋周辺層
	生活困窮層	２つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか１つの要素に該当
非生活困難層		いずれの要素にも該当しない



⑵　生活困難度別の割合

ア　生活困難層等の割合

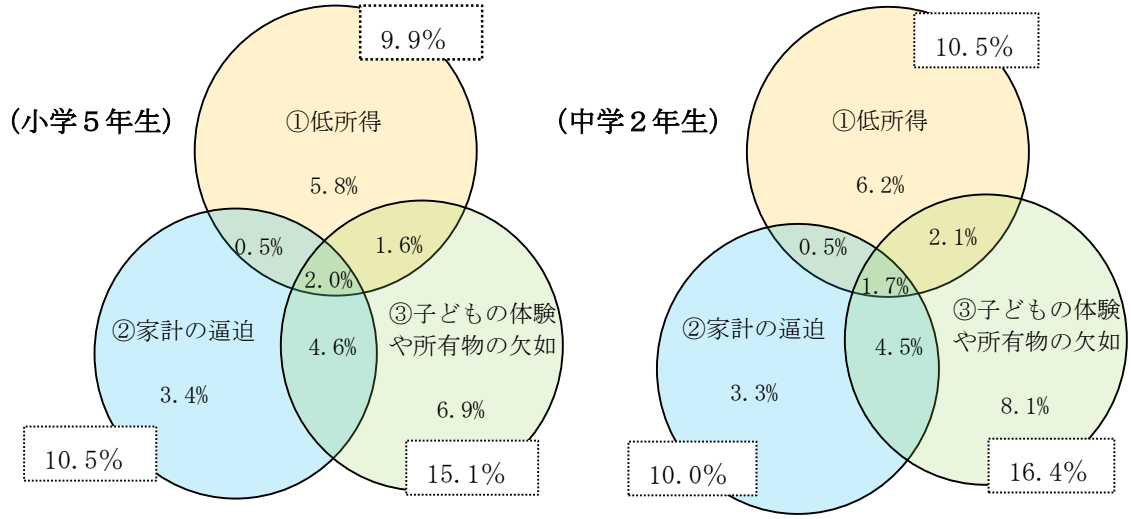
①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如の３つの要素のうち、２つ以上の要素に該当する生活困窮層の世帯は、小学５年生、中学２年生いずれも 8.8%となっています。

また、いずれか１つの要素に該当する周辺層を含めた生活困難層の世帯は、小学５年生は 24.8%、中学２年生は 26.4%となっています。

区　　分		小学５年生	中学２年生
生活困難層		24.8%	26.4%
	生活困窮層	8.8%	8.8%
	周　辺　層	16.1%	17.6%
非生活困難層		75.2%	73.6%

※　端数処理の関係で、合計が 100.0%とならない場合がある（以下同じ）。

【参考：生活困難層の内訳】



イ　世帯構成別の割合

生活困難度を世帯構成別にみると、ふたり親の世帯に比べてひとり親の世帯で生活困難層が多く、小学５年生ではひとり親世帯の 61.5%、中学２年生ではひとり親世帯の 52.0%が生活困難層となっています。

区　　分			ふたり親の世帯	ひとり親の世帯
生活困難層		小学５年生	20.9%	61.5%
		中学２年生	23.2%	52.0%
	生活困窮層	小学５年生	6.4%	30.3%
		中学２年生	7.3%	20.8%
	周　辺　層	小学５年生	14.5%	31.2%
		中学２年生	15.9%	31.2%
非生活困難層		小学５年生	79.1%	38.5%
		中学２年生	76.8%	48.0%

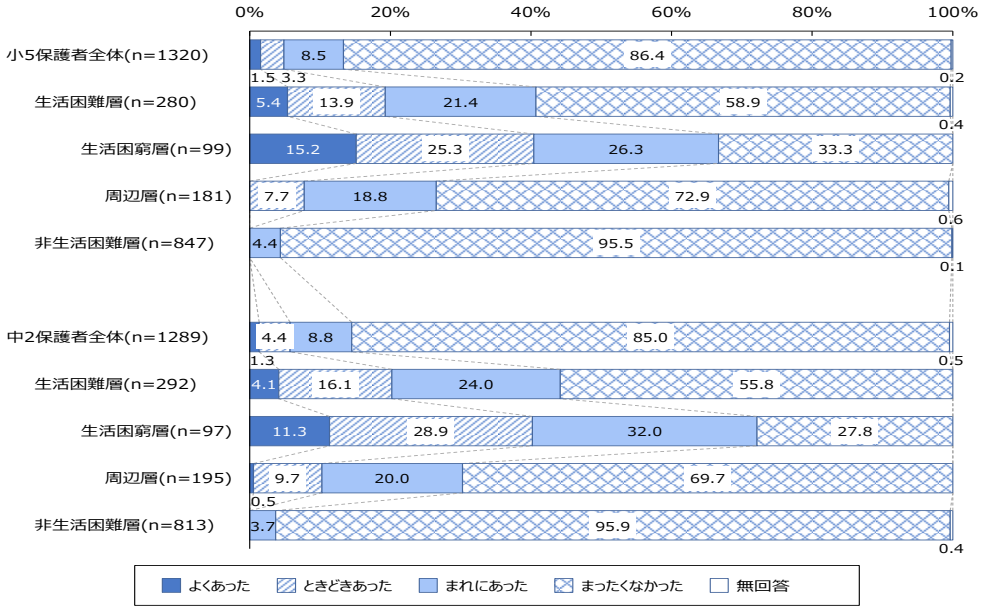
Ⅱ　生活困難の状況

1　家計の状況

⑴　食料が買えなかった経験

過去１年間に食料が買えなかった経験について、『経験がある』（「よくあった」、「ときどきあった」の合計）と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 4.8%、非生活困難層で 0%であるのに対し、生活困窮層では 40.5%、周辺層では 7.7%となっています。また、中学２年生では、全体で 5.7%、非生活困難層で 0%であるのに対し、生活困窮層では 40.2%、周辺層では 10.2%となっており、生活困難度が高いほど食料が買えなかった経験が多い傾向がみられます。

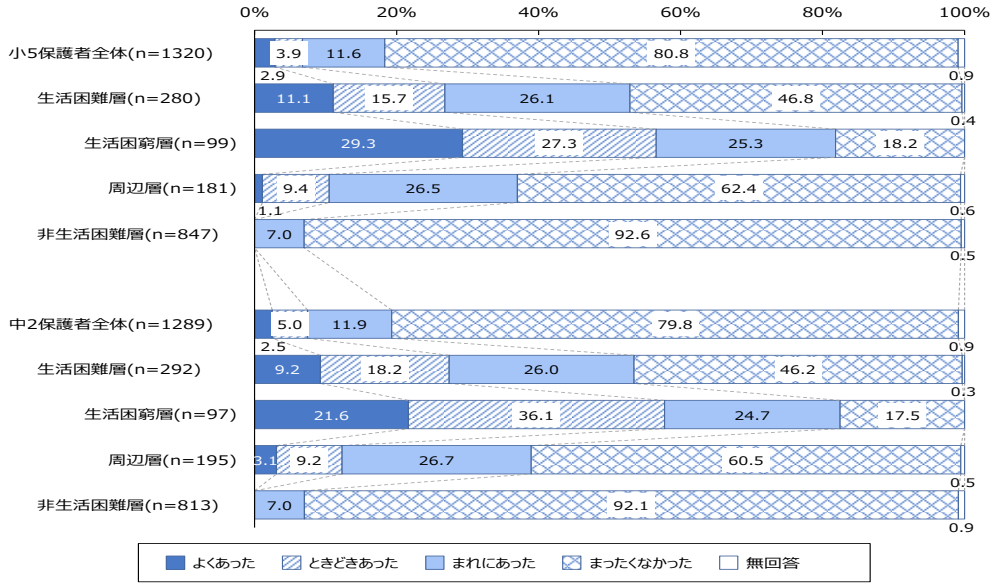
食料が買えなかった経験



⑵　衣類が買えなかった経験

過去１年間に衣類が買えなかった経験について、『経験がある』（「よくあった」、「ときどきあった」の合計）と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 6.8%、非生活困難層で 0%であるのに対し、生活困窮層では 56.6%、周辺層では 10.5%となっています。また、中学２年生では、全体で 7.5%、非生活困難層で 0%であるのに対し、生活困窮層では 57.7%、周辺層では 12.3%となっており、生活困難度が高いほど衣類が買えなかった経験が多い傾向がみられます。

衣類が買えなかった経験



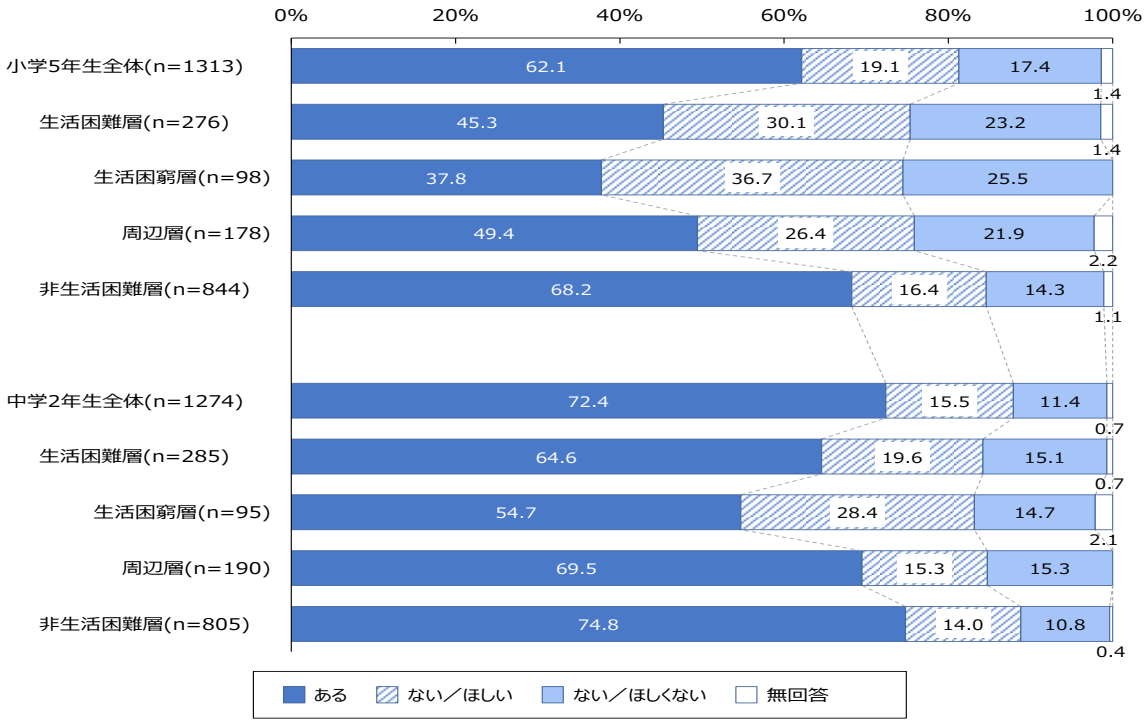
2　子どもの生活水準

(1)　所有物の状況

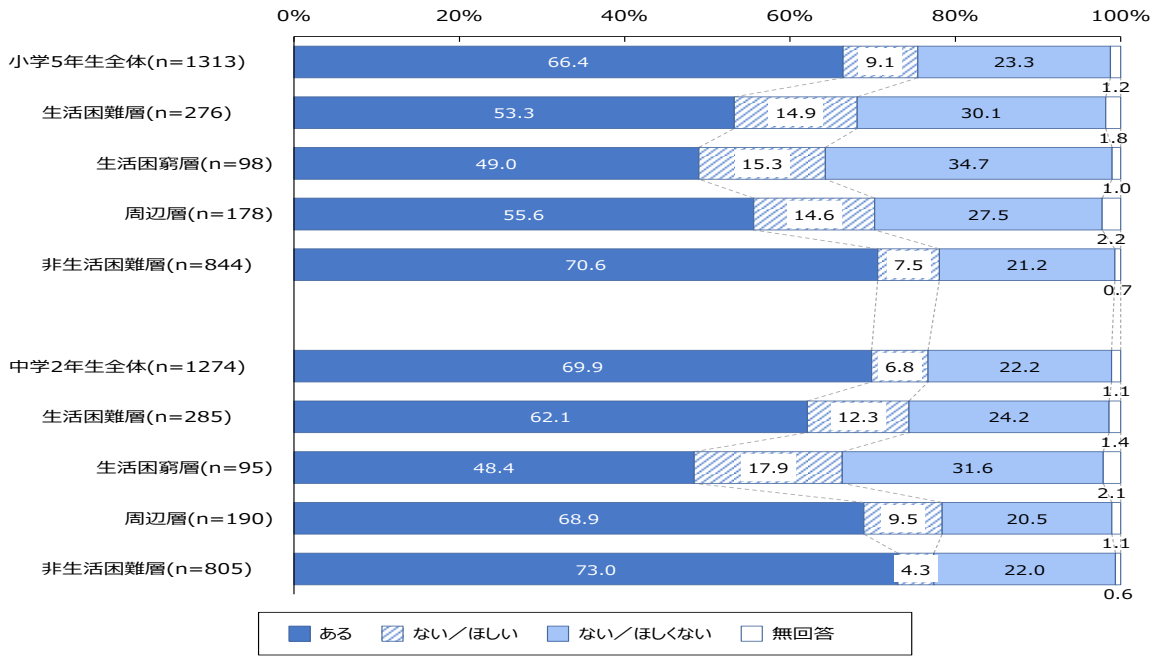
子どもの所有物について、小学５年生、中学２年生ともに、携帯電話・スマートフォン以外のすべての物品で非生活困難層より生活困難層のほうが所有率は低くなっています。特に、インターネットにつながるパソコンの所有率は、小学５年生では、全体で 62.1%、非生活困難層で 68.2%であるのに対し、生活困窮層では 37.8%、周辺層では 49.4%となっており、中学２年生では、全体で 72.4%、非生活困難層で 74.8%であるのに対し、生活困窮層では 54.7%、周辺層では 69.5%となっています。

また、友だちが着ているのと同じような服の所有率は、小学５年生では、全体で 66.4%、非生活困難層で 70.6%であるのに対し、生活困窮層では 49.0%、周辺層では 55.6%となっており、中学２年生では、全体で 69.9%、非生活困難層で 73.0%であるのに対し、生活困窮層では 48.4%、周辺層では 68.9%となっています。

インターネットにつながるパソコンの所有状況



友だちが着ているのと同じような服の所有状況

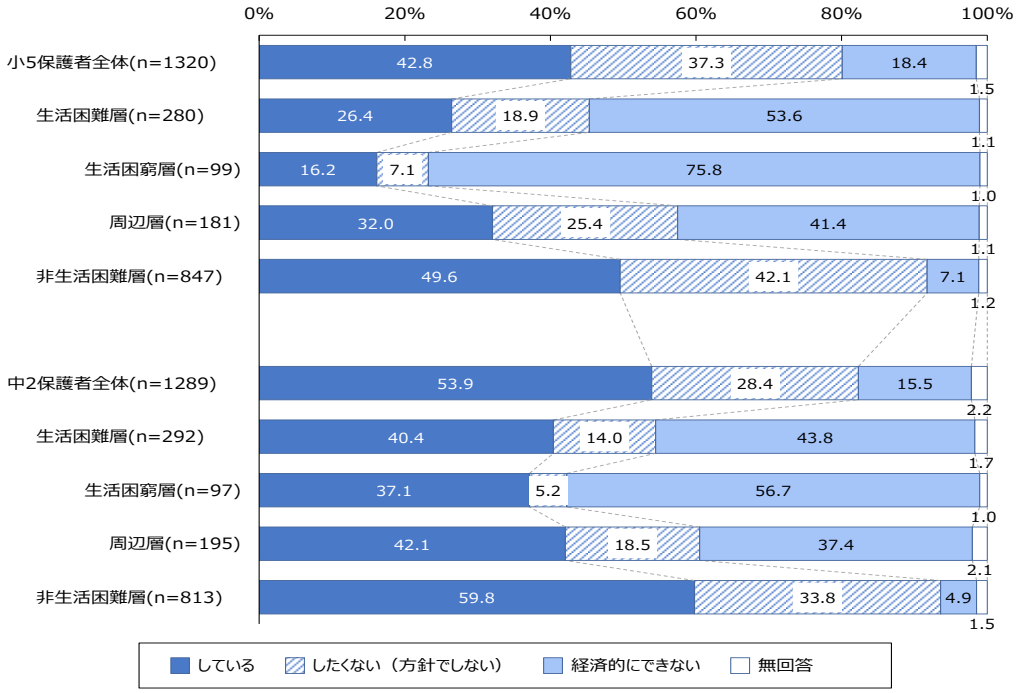


⑵ 子どもへの支出

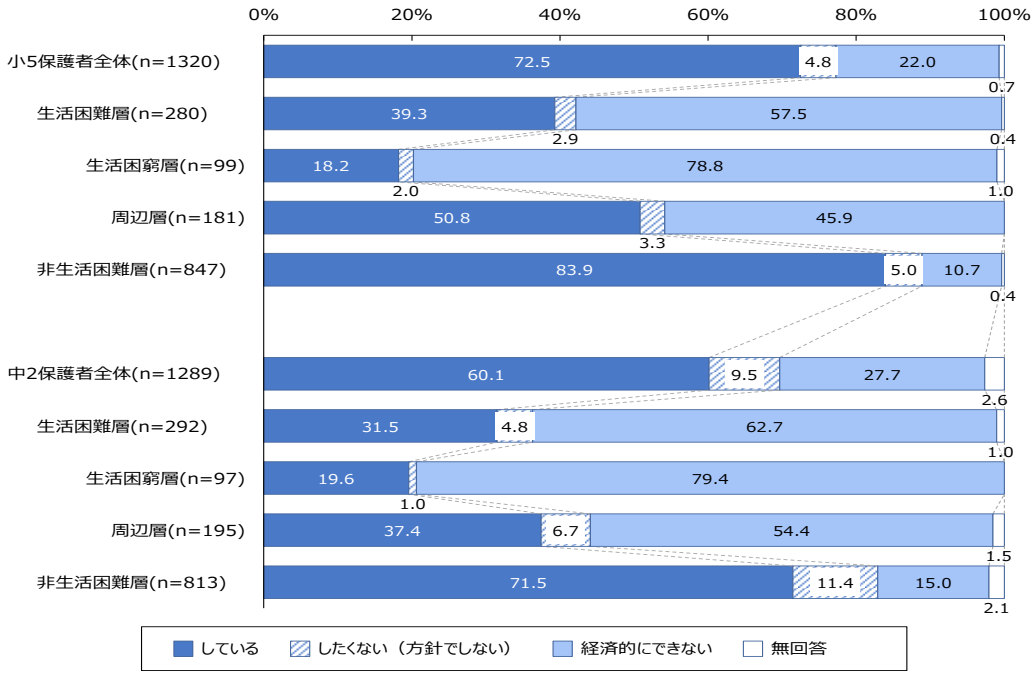
子どもへの支出について、小学５年生、中学２年生ともに、誕生日のお祝い、保護者の学校行事への参加は、生活困難度による差はあまりみられませんが、それ以外の項目では、生活困難度が高いほど「経済的にできない」と回答する割合が高くなっています。特に、学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）ことが「経済的にできない」と回答した割合は、小学５年生では、全体で 18.4%、非生活困難層で 7.1%であるのに対し、生活困窮層では 75.8%、周辺層では 41.4%となっており、中学２年生では、全体で 15.5%、非生活困難層で 4.9%であるのに対し、生活困窮層では 56.7%、周辺層では 37.4%となっています。

また、年１回程度の家族旅行が「経済的にできない」と回答した割合は、小学５年生では、全体で 22.0%、非生活困難層で 10.7%であるのに対し、生活困窮層では 78.8%、周辺層では 45.9%となっており、中学２年生では、全体で 27.7%、非生活困難層で 15.0%であるのに対し、生活困窮層では 79.4%、周辺層では 54.4%となっています。

学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）



１年に１回くらい家族旅行に行く

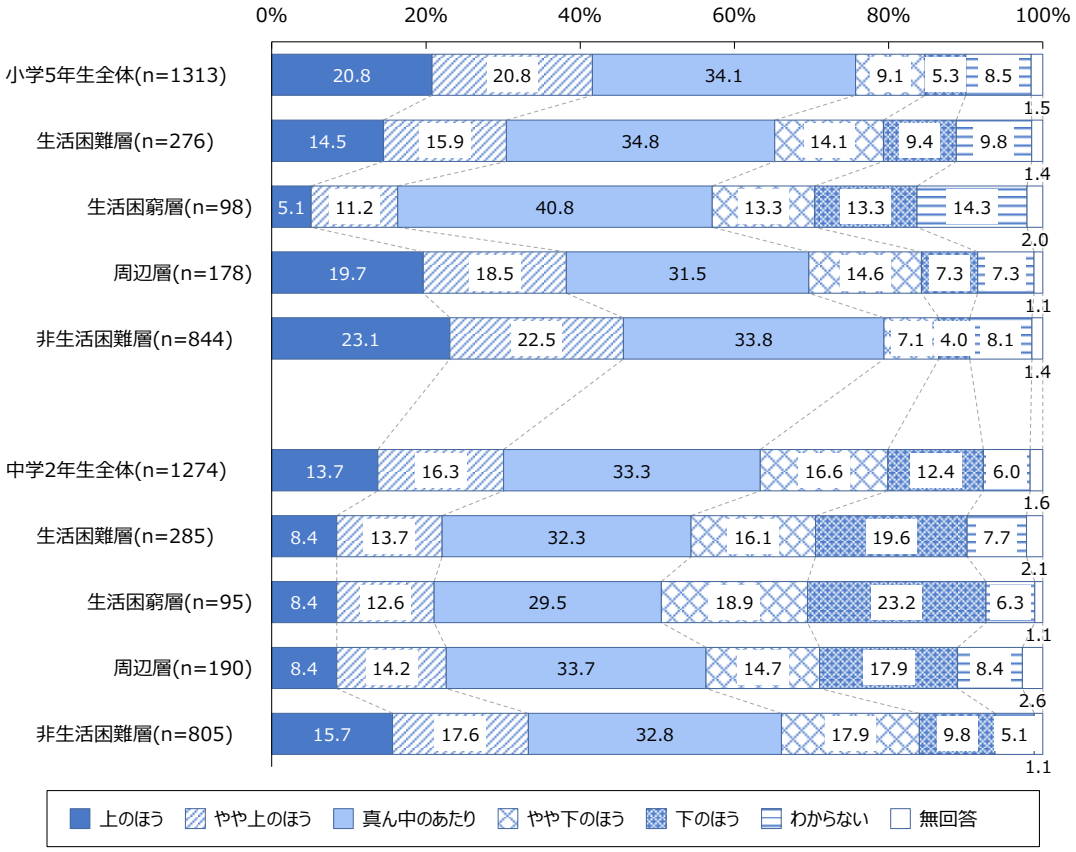


Ⅲ　子どもの学び

1　成績の主観的評価

クラスの中での成績順位にかかる子どもの主観的評価について、『下のほう』（「下のほう」、「やや下のほう」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 14.4%、非生活困難層で 11.1%であるのに対し、生活困窮層では 26.6%、周辺層では 21.9%となっています。また、中学２年生では、全体で 29.0%、非生活困難層で 27.7%であるのに対し、生活困窮層では 42.1%、周辺層では 32.6%となっており、生活困難度が高いほど成績の主観的評価が低い傾向がみられます。

成績の主観的評価

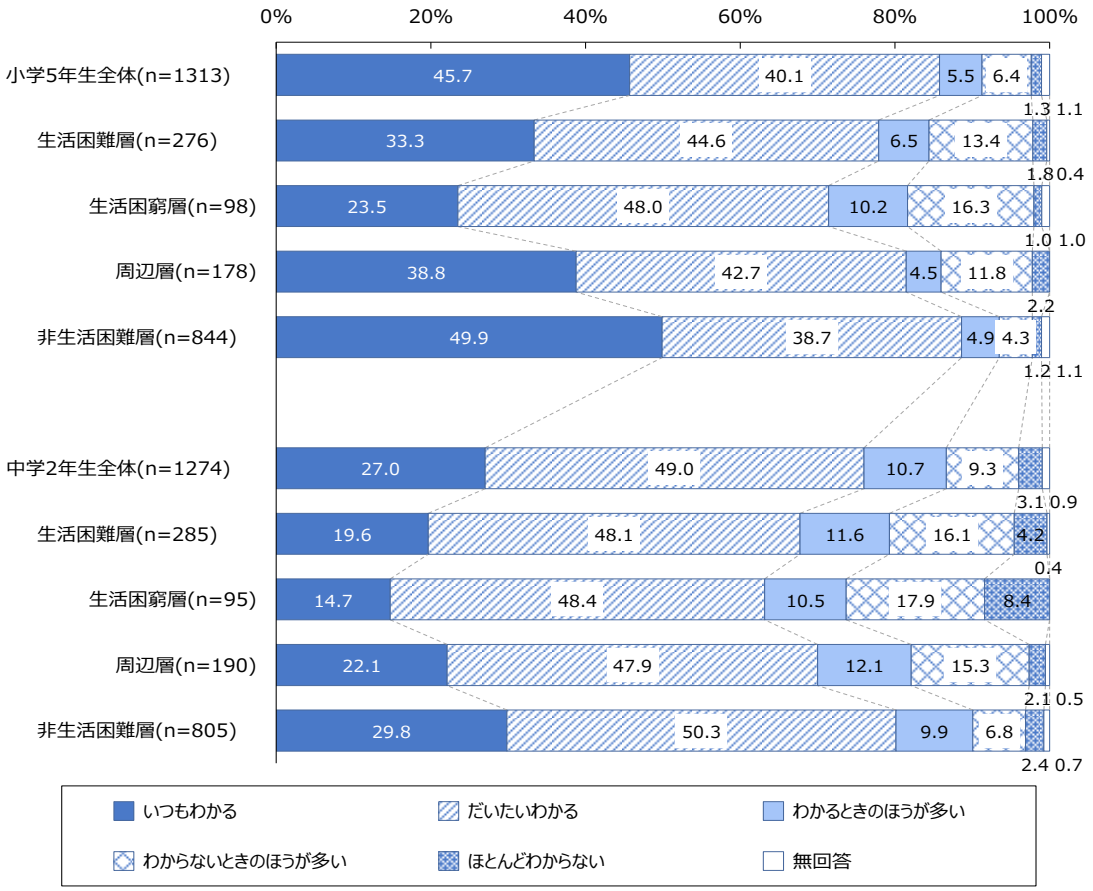


2　授業の理解や学習の状況

(1)　授業の理解度

授業の理解度について、『わからない』（「ほとんどわからない」、「わからない時の方が多い」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 7.7%、非生活困難層で 5.5%であるのに対し、生活困窮層では 17.3%、周辺層では 14.0%となっています。また、中学２年生では、全体で 12.4%、非生活困難層で 9.2%であるのに対し、生活困窮層では 26.3%、周辺層では 17.4%となっており、<u>生活困難度が高いほど授業の理解度が低い傾向がみられます。</u>

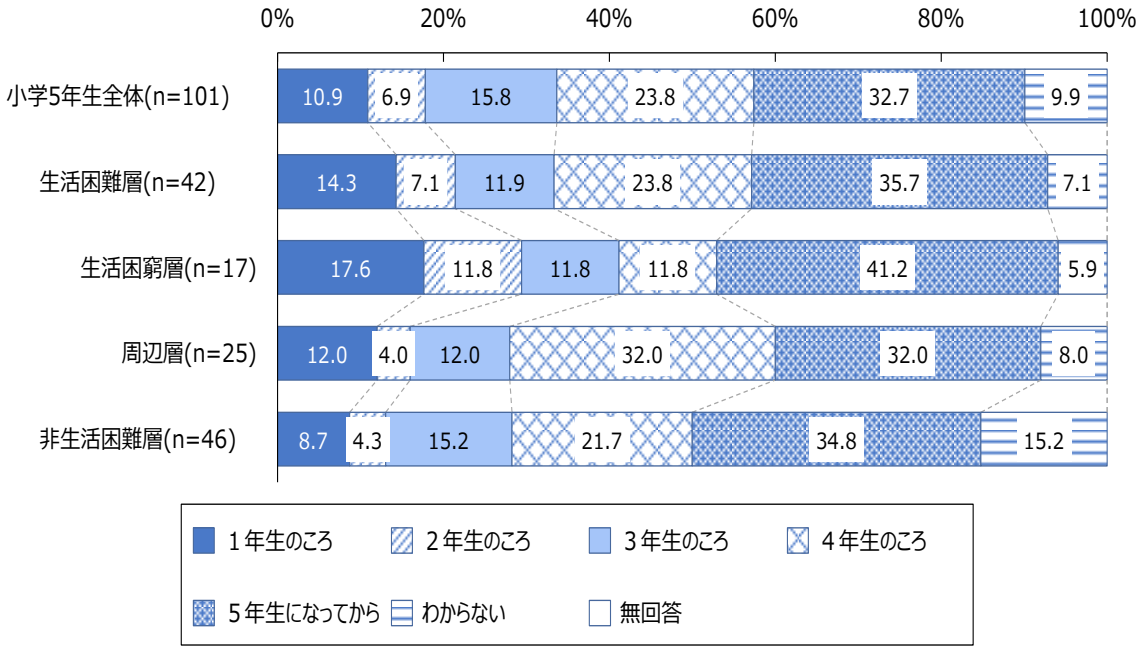
授業の理解度



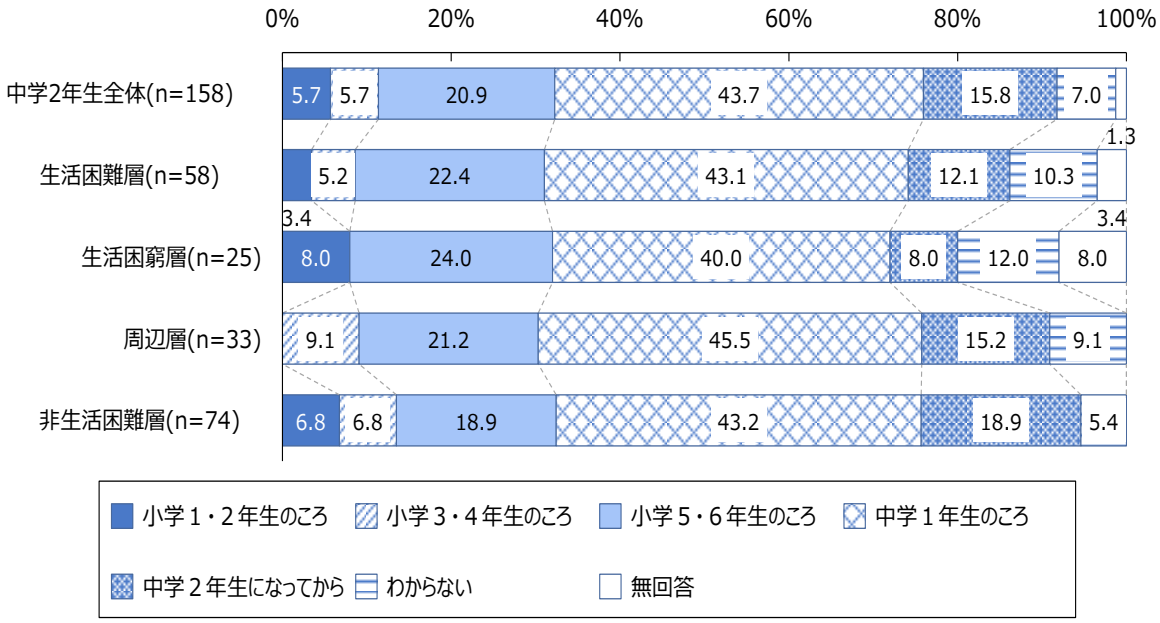
⑵　授業がわからなくなった時期

授業がわからなくなった時期について、小学５年生では、生活困難度にかかわらず「５年生になってから」と回答した割合が最も高いが、『３年生まで』（「１年生のころ」「２年生のころ」「３年生のころ」の合計）にわからなくなった割合をみると、全体で 33.6%、非生活困難層で 28.2%であるのに対し、生活困窮層では 41.2%、周辺層では 28.0%となっており、生活困窮層において早い時期から授業がわからなくなる割合が高くなっています。また、中学２年生では、生活困難度にかかわらず「中学１年生のころ」と回答した割合が最も高いが、わからなくなった時期について生活困難度による差はあまりありません。

授業がわからなくなった時期（小学５年生）



授業がわからなくなった時期（中学２年生）

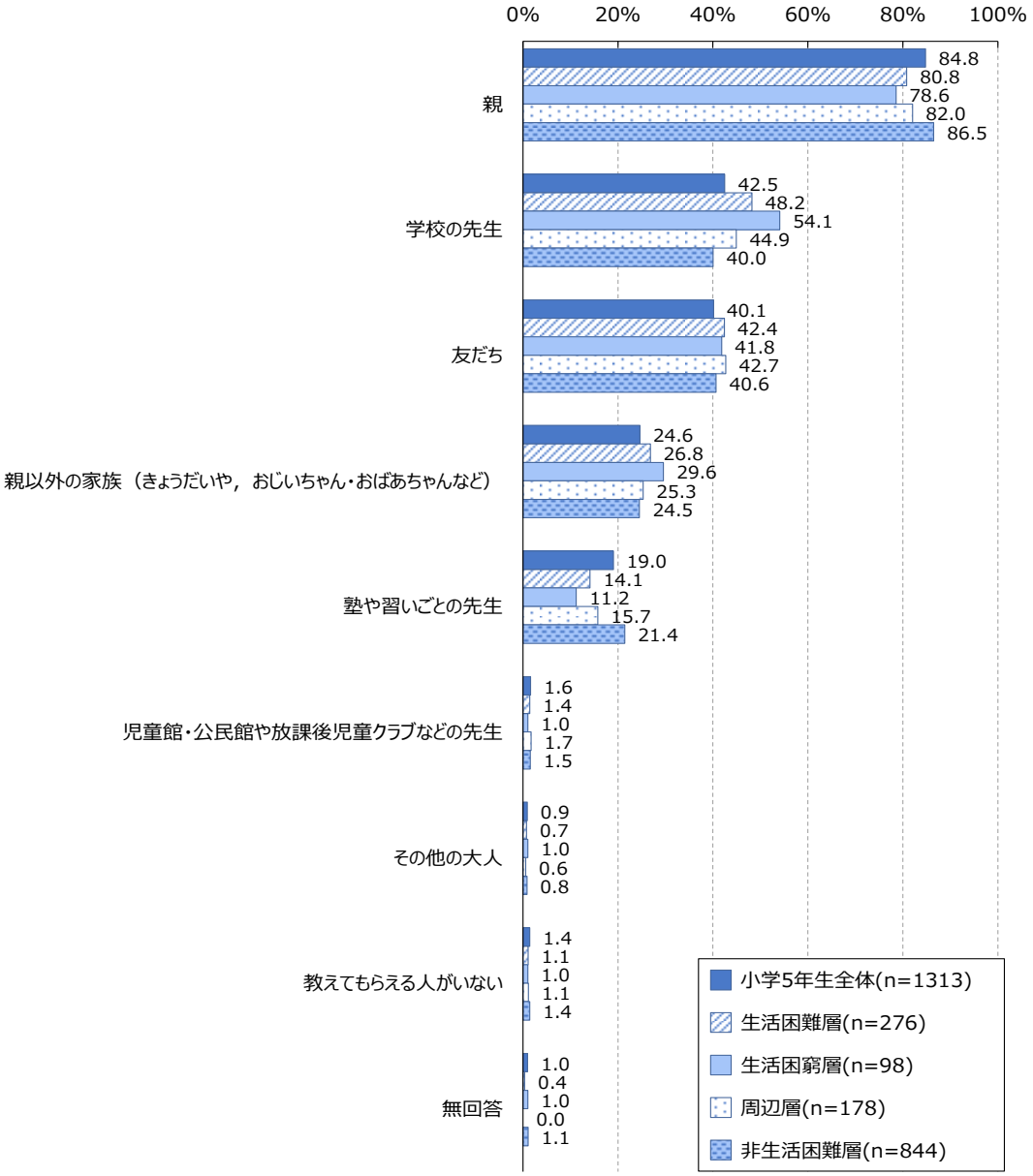


⑶　勉強を教えてもらう人

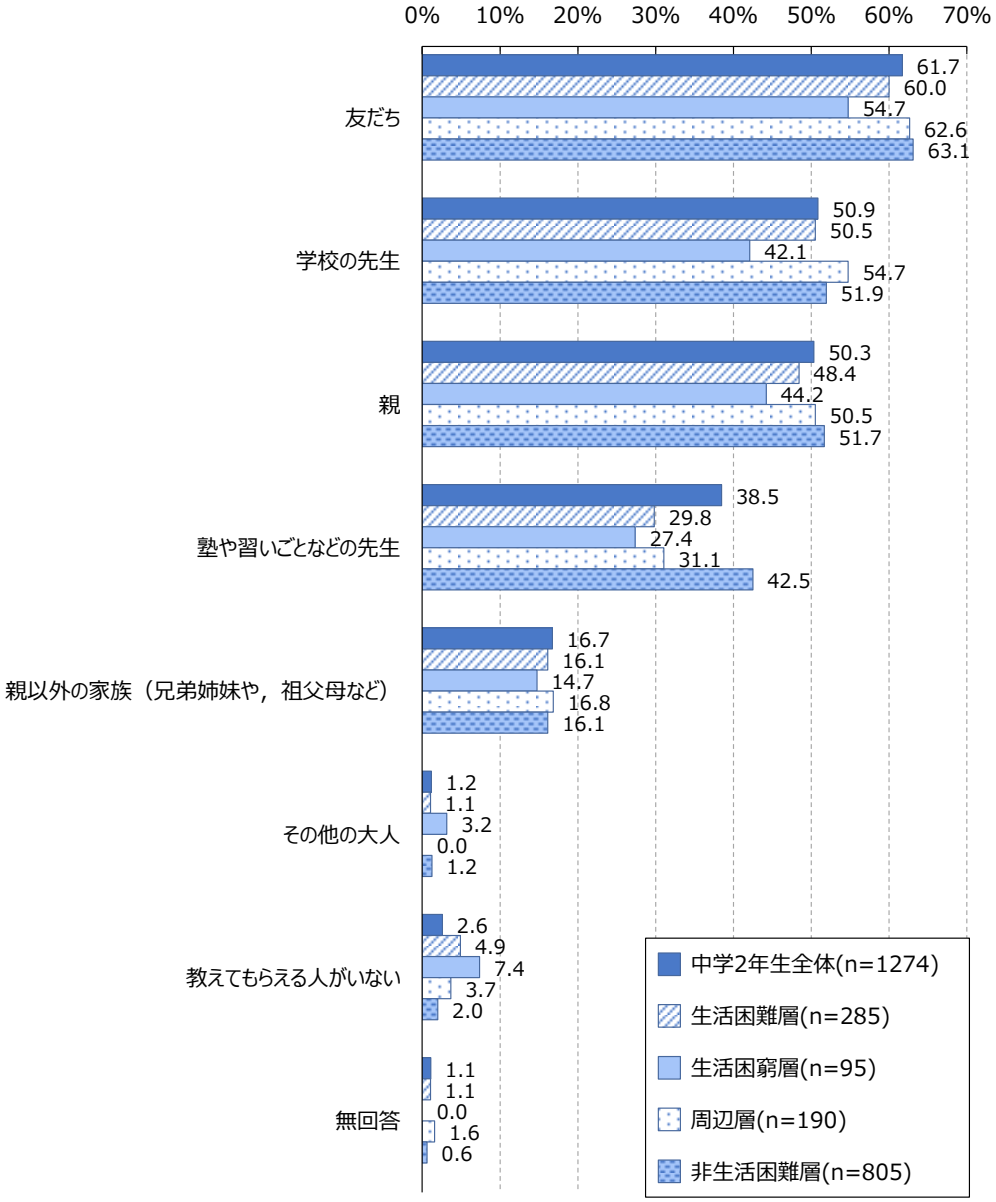
勉強がわからない時に教えてもらう人について、「親」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 84.8%、非生活困難層で 86.5%であるのに対し、生活困窮層では 78.6%、周辺層では 82.0%となっています。中学２年生では、全体で 50.3%、非生活困難層で 51.7%であるのに対し、生活困窮層では 44.2%、周辺層では 50.5%となっており、生活困難度が高いほど親に勉強を教えてもらう割合が低い傾向がみられます。

また「塾や習いごとの先生」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 19.0%、非生活困難層で 21.4%であるのに対し、生活困窮層では 11.2%、周辺層では 15.7%となっています。中学２年生では、全体で 38.5%、非生活困難層で 42.5%であるのに対し、生活困窮層では 27.4%、周辺層では 31.1%となっており、生活困難度が高いほど塾や習いごとの先生に勉強を教えてもらう割合が低い傾向がみられます。

勉強がわからないとき、教えてもらう人（小学５年生）



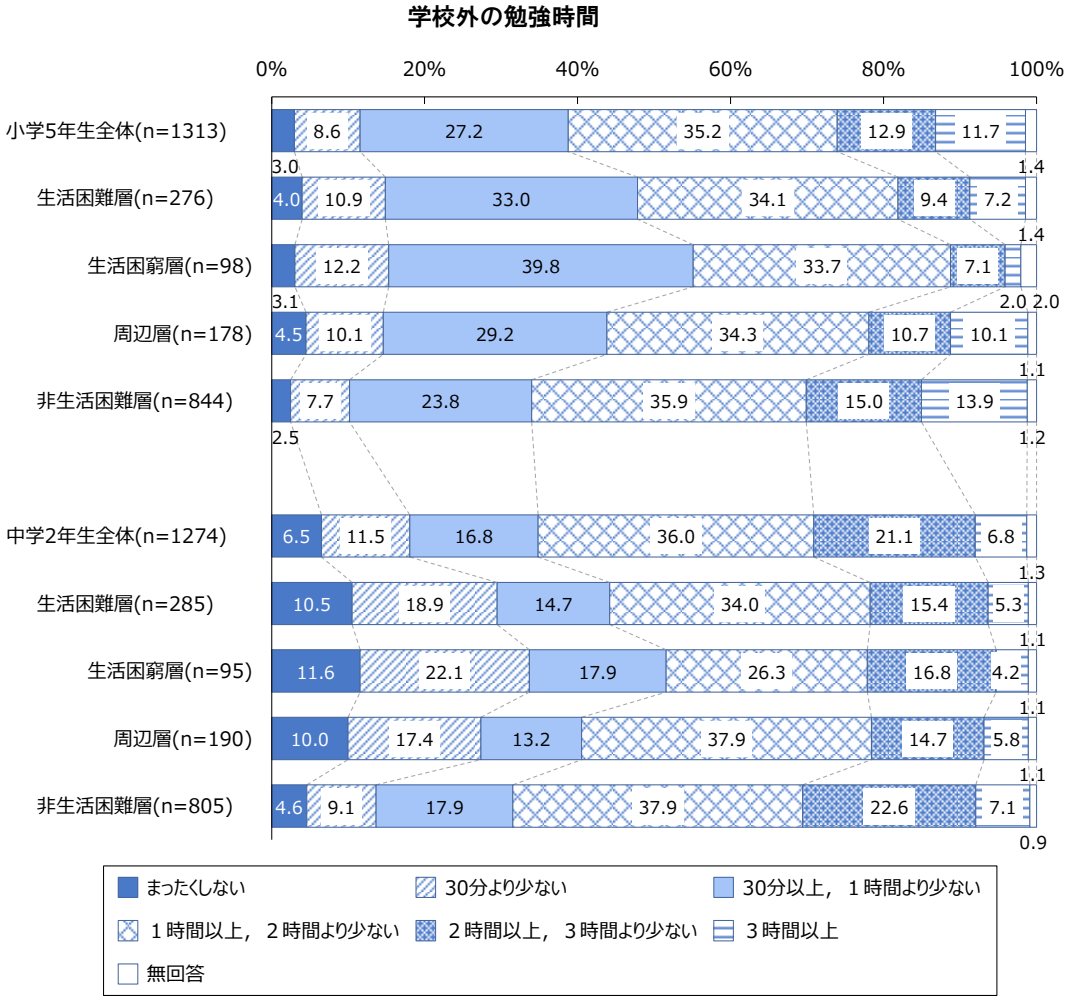
勉強がわからないとき、教えてもらう人（中学２年生）



３　学校外での学習･勉強の状況

⑴　学校外での勉強時間

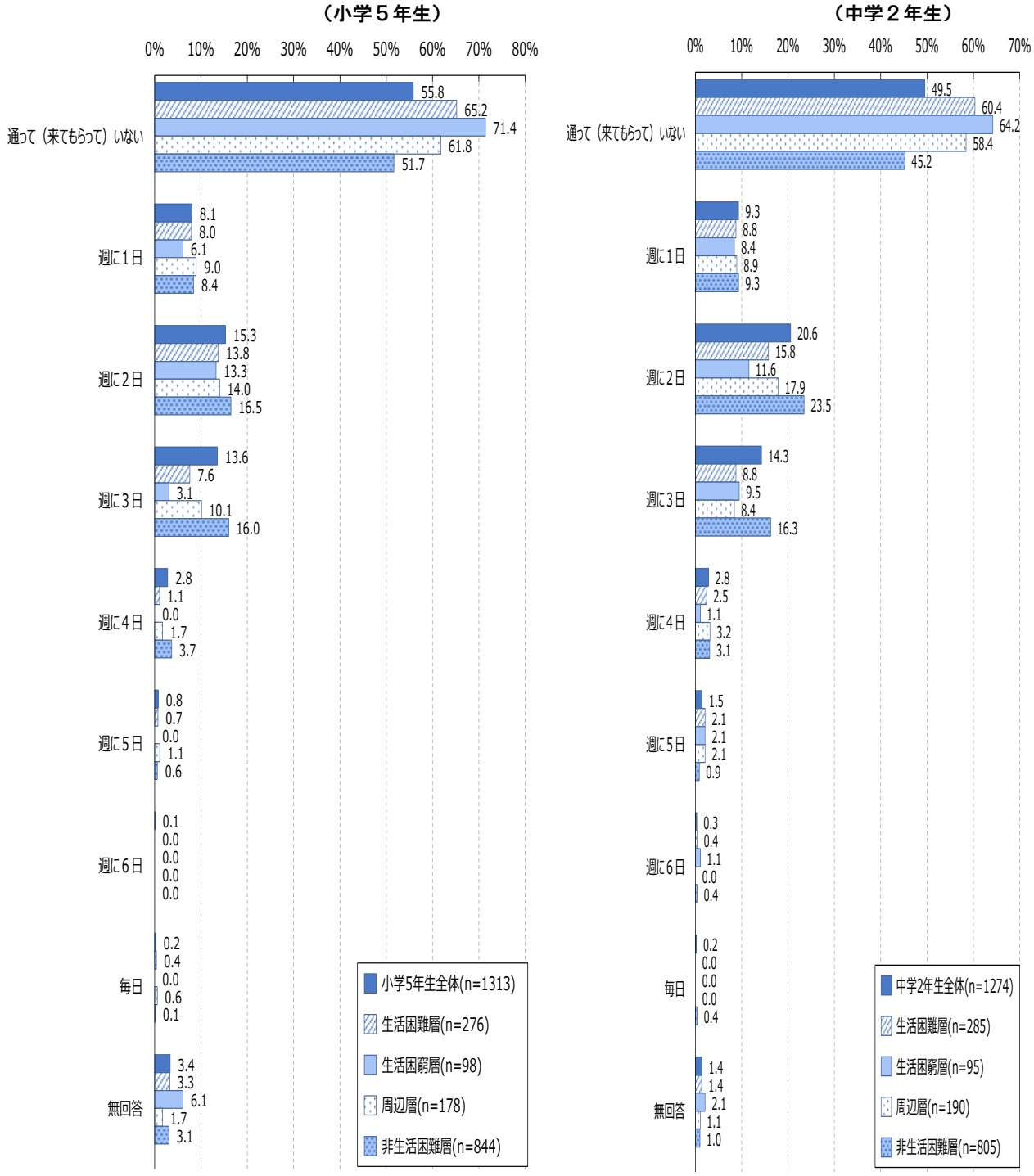
学校外での勉強時間について、『１時間以上』（「１時間以上、２時間より少ない」、「２時間以上、３時間より少ない」、「３時間以上」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で59.8%、非生活困難層で64.8%であるのに対し、生活困窮層では42.8%、周辺層では55.1%となっています。また、中学２年生では、全体で63.9%、非生活困難層で67.6%であるのに対し、生活困窮層では47.3%、周辺層では58.4%となっており、生活困難度が高いほど学校外での勉強時間が短い傾向がみられます。



⑵　学習塾・家庭教師の利用状況

学習塾・家庭教師の利用状況について、「通って（来てもらって）いない」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 55.8%、非生活困難層で 51.7%であるのに対し、生活困窮層では 71.4%、周辺層では 61.8%となっています。また、中学２年生では、全体で 49.5%、非生活困難層で 45.2%であるのに対し、生活困窮層では 64.2%、周辺層では 58.4%となっており、<u>生活困難度が高いほど塾・家庭教師を利用していない傾向がみられます。</u>

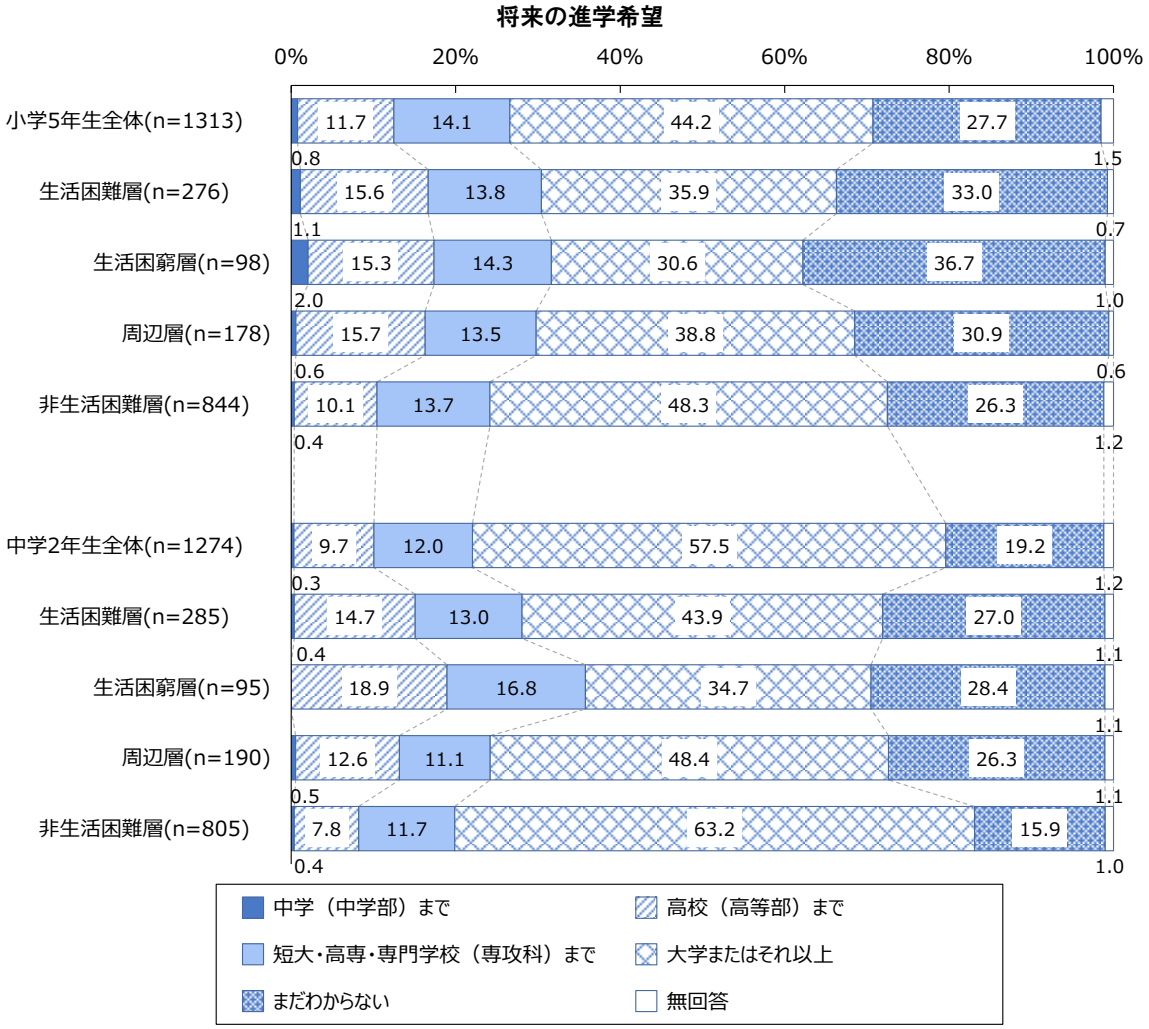
学習塾・家庭教師の利用状況



4　将来の進学希望

子どもの将来の進学希望について、「大学またはそれ以上」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 44.2%、非生活困難層で 48.3%であるのに対し、生活困窮層では 30.6%、周辺層では 38.8%となっています。また、中学２年生では、全体で 57.5%、非生活困難層で 63.2%であるのに対し、生活困窮層では 34.7%、周辺層では 48.4%となっており、生活困難度が高いほど大学またはそれ以上の進学を希望する割合は低い傾向がみられます。

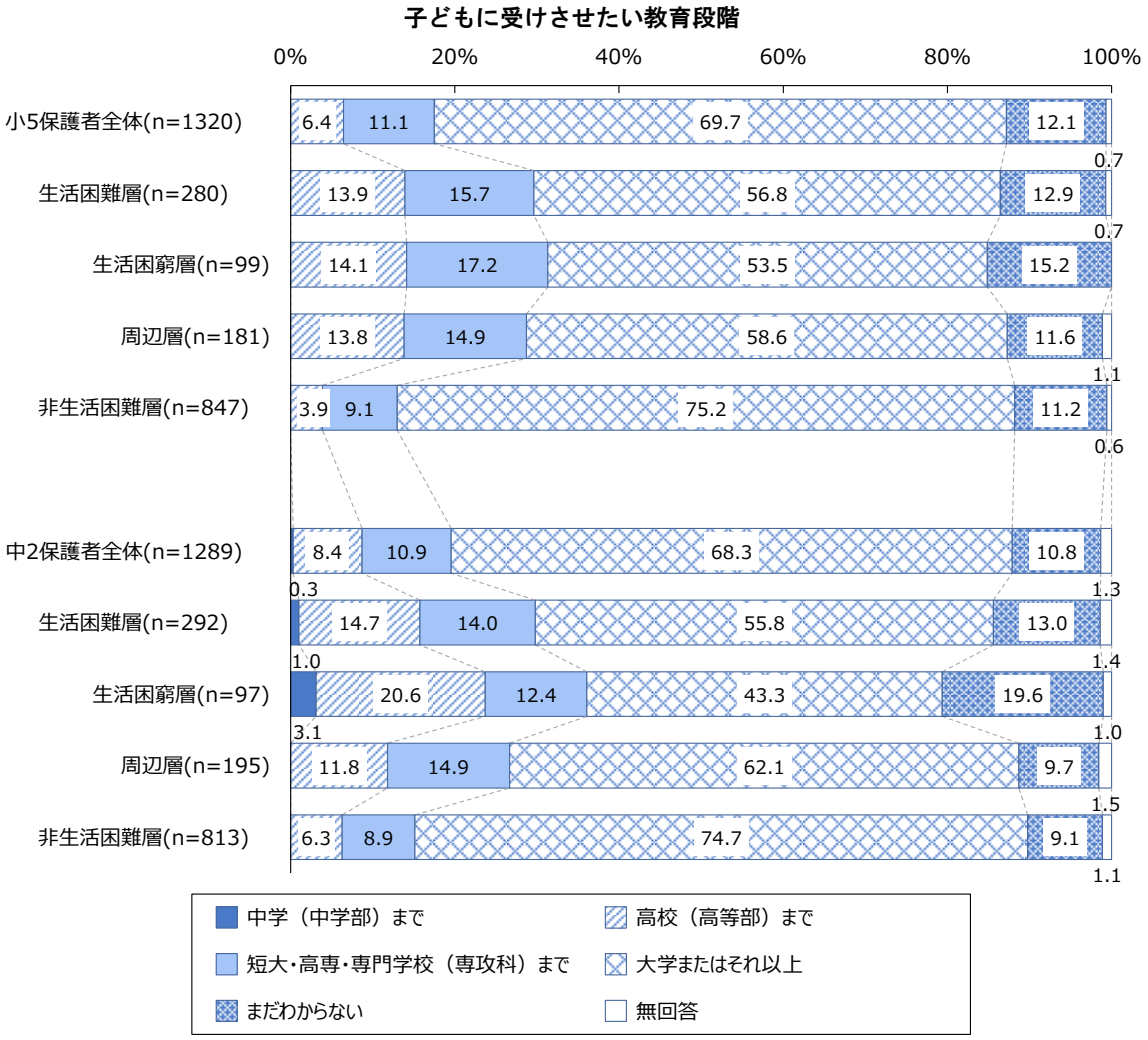
さらに、小学５年生、中学２年生ともに、生活困難度が高いほど「まだわからない」と回答した割合が高い傾向がみられます。

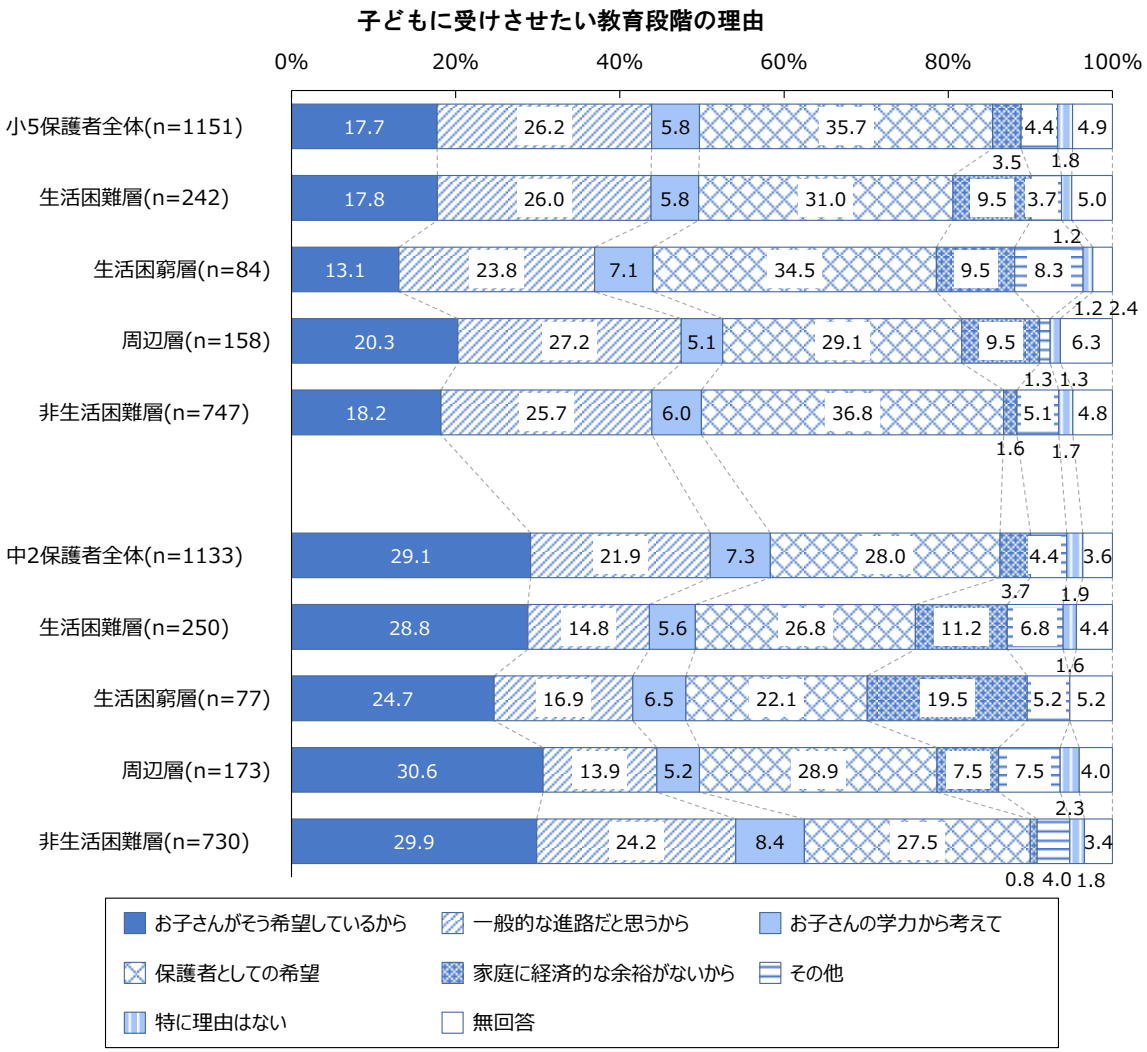


５　子どもに受けさせたい教育

保護者が子どもに受けさせたい教育段階について、「大学またはそれ以上」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 69.7%、非生活困難層で 75.2%であるのに対し、生活困窮層では 53.5%、周辺層では 58.6%となっています。中学２年生では、全体で 68.3%、非生活困難層で 74.7%であるのに対し、生活困窮層では 43.3%、周辺層では 62.1%となっており、生活困難度が高いほど大学又はそれ以上の教育を受けさせたい保護者の割合が低い傾向がみられます。

また、子どもに受けさせたい教育段階の理由について、「家庭に経済的な余裕がないから」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 3.5%、非生活困難層で 1.6%であるのに対し、生活困窮層、周辺層ともに 9.5%となっています。中学２年生では、全体で 3.7%、非生活困難層で 0.8%であるのに対し、生活困窮層では 19.5%、周辺層では 7.5%となっており、非生活困難層より生活困難層のほうが経済的な理由により子どもに受けさせたい教育段階が制限されています。



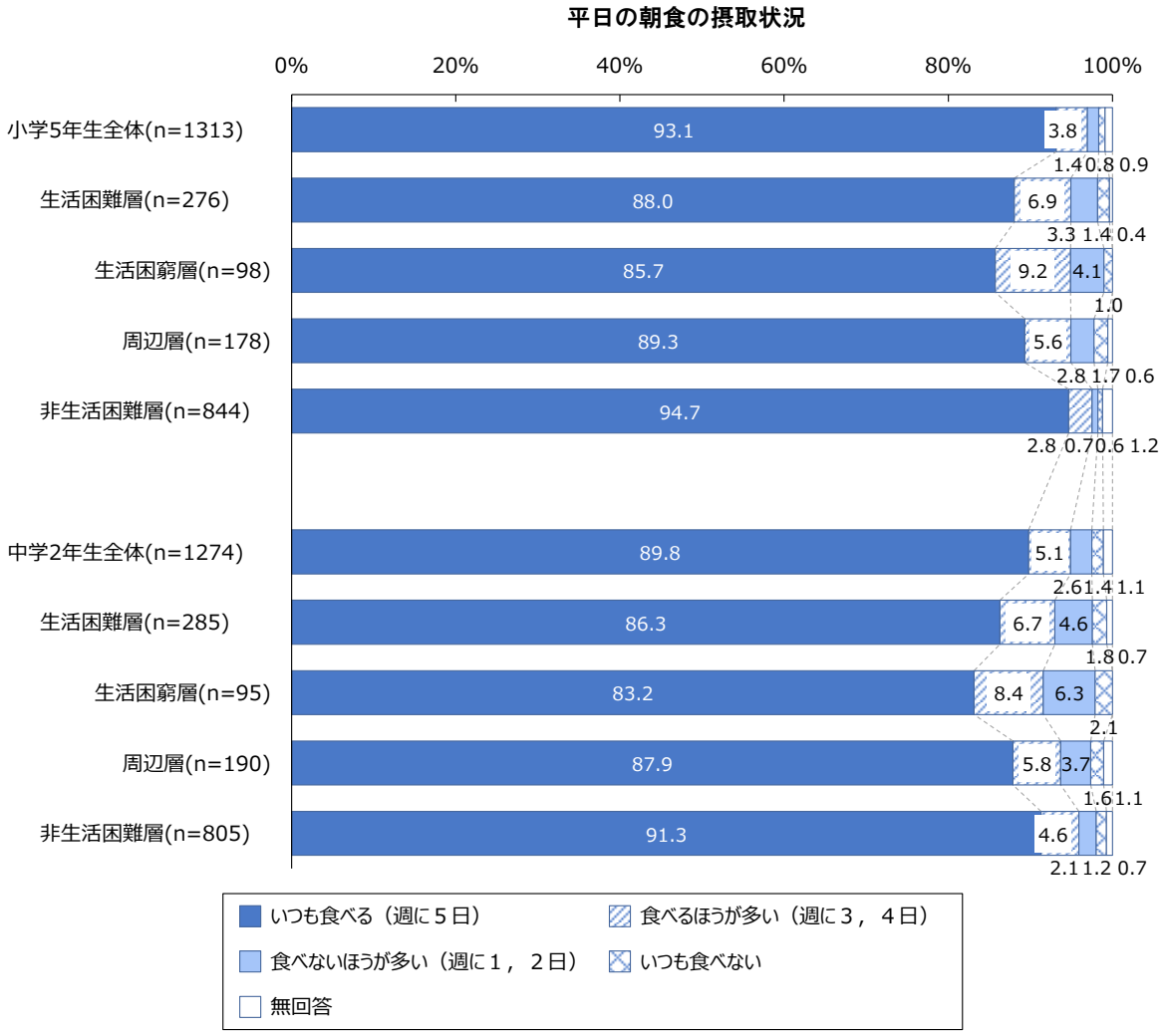

子どもに受けさせたい教育段階の理由
0%
20%
40%
60%
80%
100%
小5保護者全体(n=1151)
17.7
26.2
5.8
35.7
4.4
4.9
3.5
1.8
生活困難層(n=242)
17.8
26.0
5.8
31.0
9.5
3.7
5.0
1.2
生活困窮層(n=84)
13.1
23.8
7.1
34.5
9.5
8.3
1.2
2.4
周辺層(n=158)
20.3
27.2
5.1
29.1
9.5
6.3
1.3
1.3
非生活困難層(n=747)
18.2
25.7
6.0
36.8
5.1
4.8
1.6
1.7
中2保護者全体(n=1133)
29.1
21.9
7.3
28.0
4.4
3.6
3.7
1.9
生活困難層(n=250)
28.8
14.8
5.6
26.8
11.2
6.8
4.4
1.6
生活困窮層(n=77)
24.7
16.9
6.5
22.1
19.5
5.2
5.2
周辺層(n=173)
30.6
13.9
5.2
28.9
7.5
7.5
4.0
2.3
非生活困難層(n=730)
29.9
24.2
8.4
27.5
3.4
0.8
4.0
1.8
お子さんがそう希望しているから
一般的な進路だと思うから
お子さんの学力から考えて
保護者としての希望
家庭に経済的な余裕がないから
その他
特に理由はない
無回答

Ⅳ　子どもの日常生活

1　平日の食事

(1)　平日の朝食の摂取状況

平日の朝食の摂取状況について、『毎日は食べない』(「いつも食べない」、「食べないほうが多い（週に１、２日)」、「食べるほうが多い（週に３、４日)」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 6.0%、非生活困難層で 4.1%であるのに対し、生活困窮層では 14.3%、周辺層では 10.1%となっています。また、中学２年生では、全体で 9.1%、非生活困難層で 7.9%であるのに対し、生活困窮層では 16.8%、周辺層では 11.1%となっており、生活困難度が高いほど朝食を食べない割合が高い傾向がみられます。



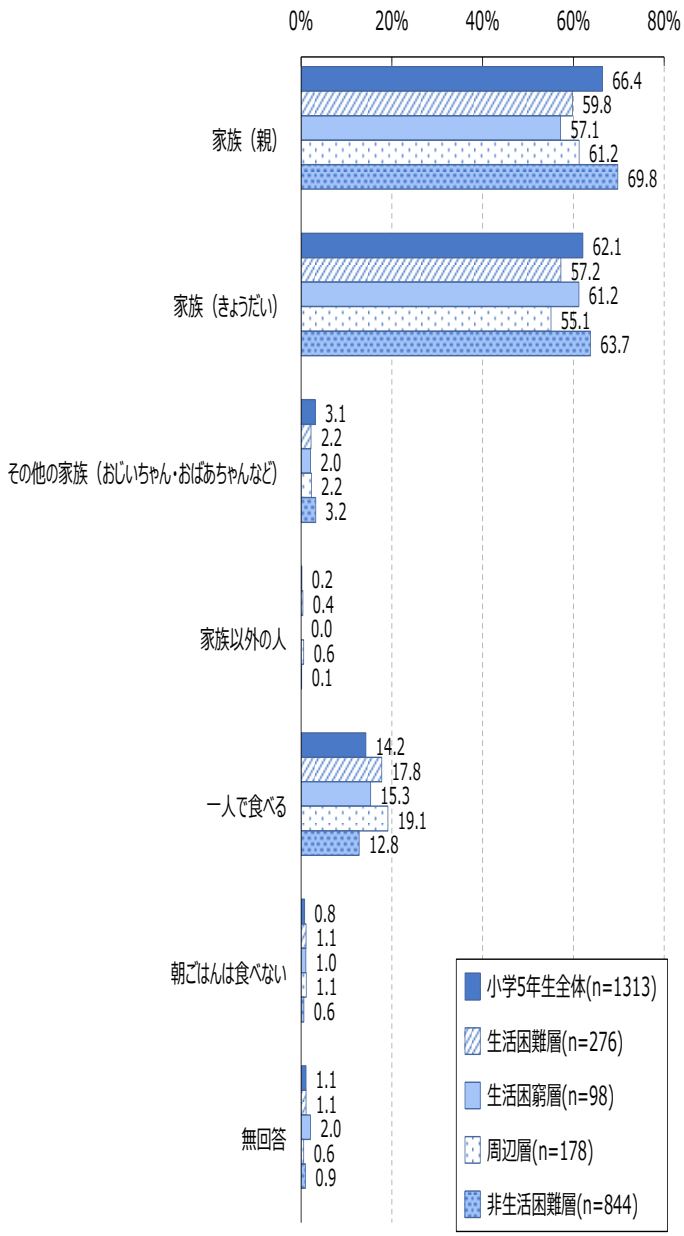
⑵　平日に朝食を一緒にとる人

平日の朝食を一緒に食べる人について、「家族（親）」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 66.4%、非生活困難層で 69.8%であるのに対し、生活困窮層では 57.1%、周辺層では 61.2%となっています。中学２年生では、全体で 58.3%、非生活困難層で 59.1%であるのに対し、生活困窮層では 49.5%、周辺層では 57.4%となっており、生活困難度が高いほど朝食を親と一緒に食べる割合が低い傾向がみられます。

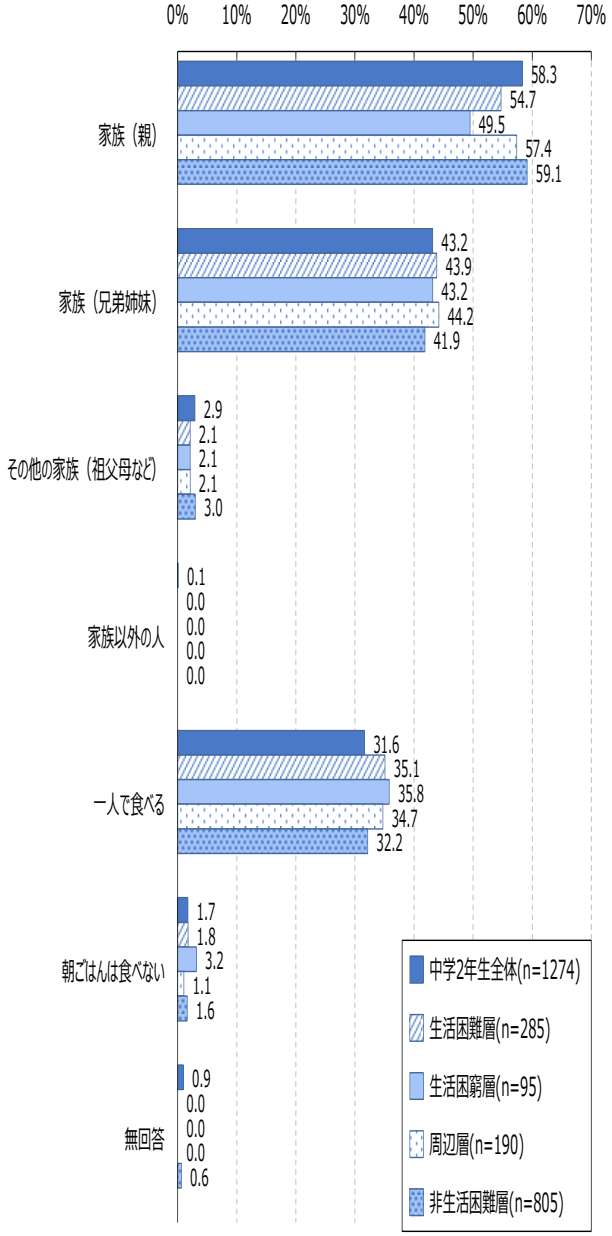
また、「一人で食べる」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 14.2%、非生活困難層で 12.8%であるのに対し、生活困窮層では 15.3%、周辺層では 19.1%となっています。中学２年生では、全体で 31.6%、非生活困難層で 32.2%であるのに対し、生活困窮層では 35.8%、周辺層では 34.7%となっており、非生活困難層より生活困難層のほうが孤食の子どもの割合が高くなっているとともに、生活困難度に関わらず、学年が上がるにつれて孤食の割合が高くなっています。

平日に朝食を一緒に食べる人

（小学５年生）



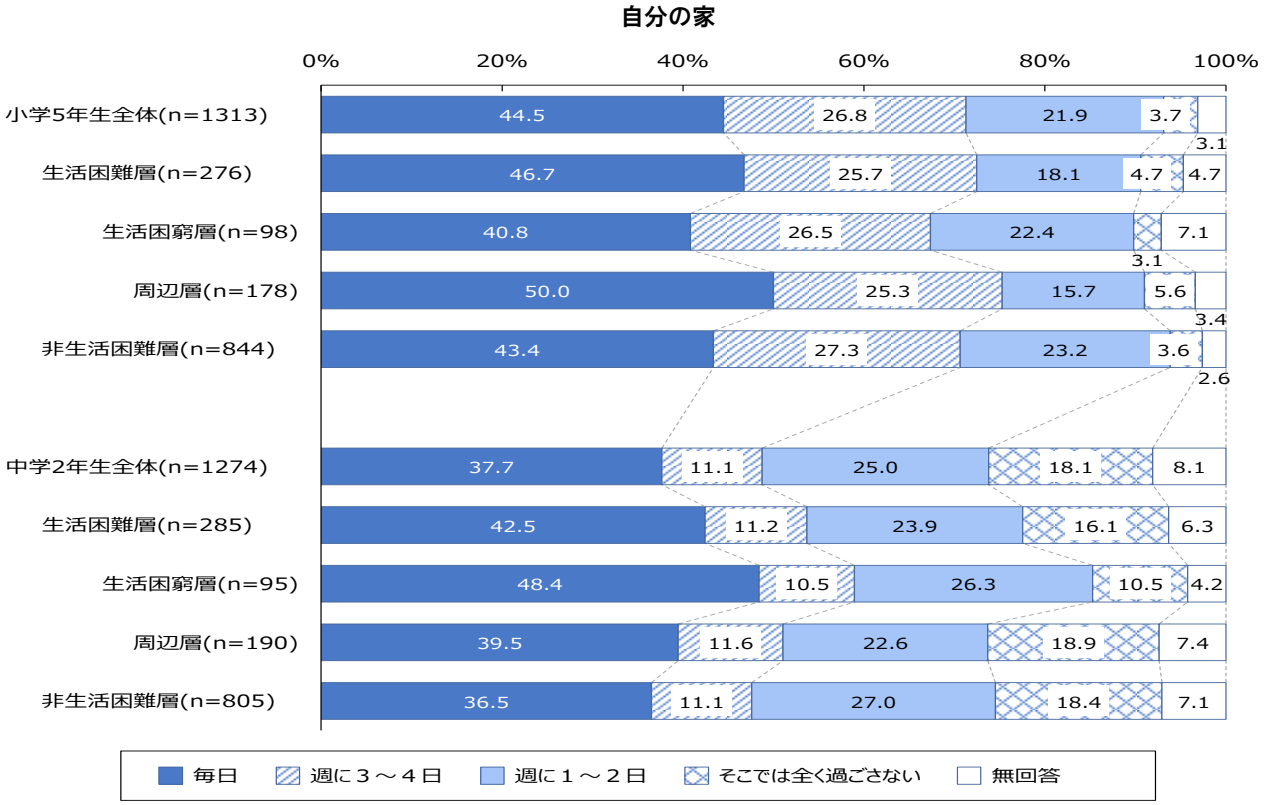
（中学２年生）

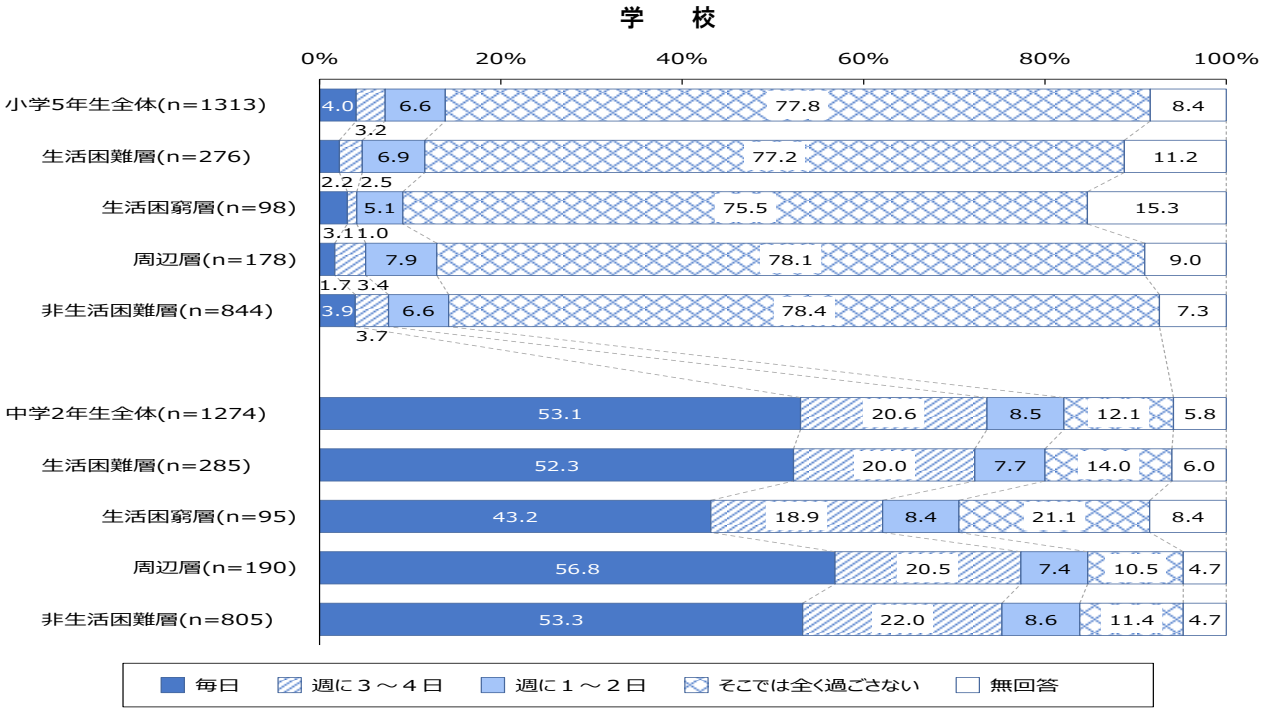


2　平日の放課後を過ごす場所

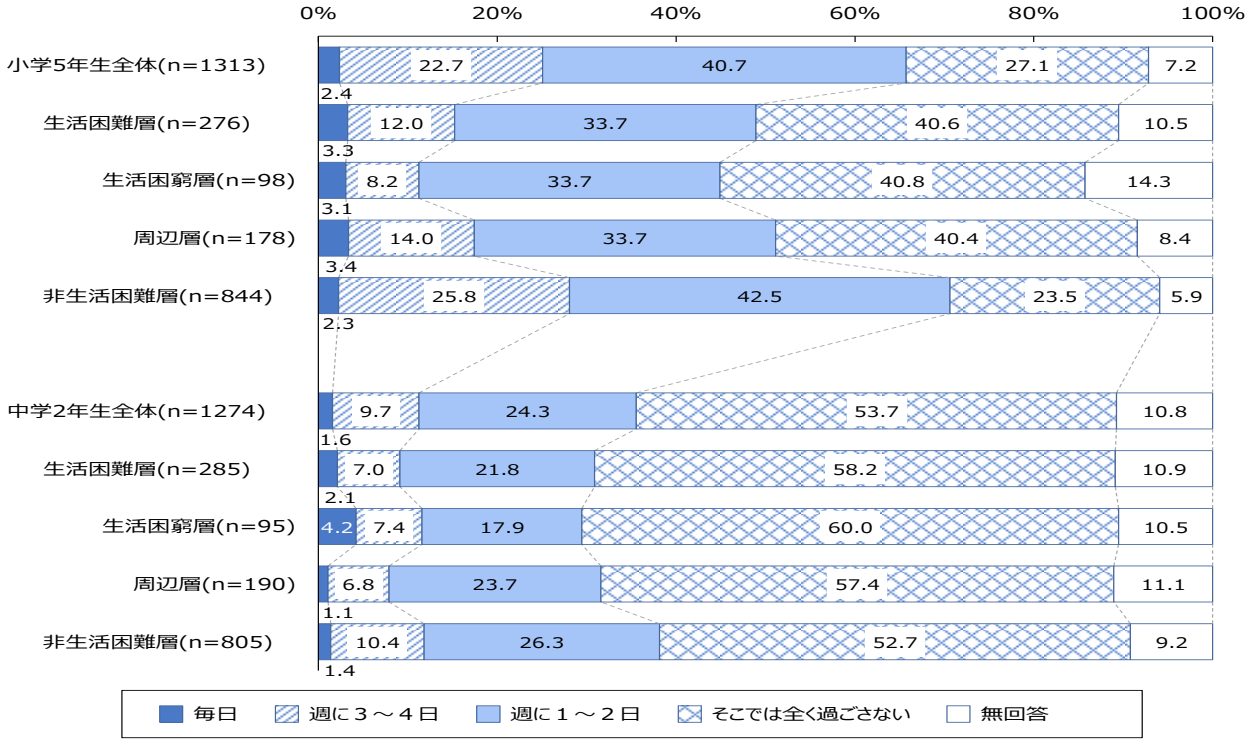
平日の放課後を過ごす場所について、過ごす頻度が『週３～４日以上』（「毎日」、「週に３～４日」の合計）と回答した子どもの割合は、生活困難度にかかわらず、小学５年生では、自分の家が最も高く、中学２年生では、学校が最も高くなっています。

また、塾や習いごとをする場所で『週１～２日以上』（「毎日」、「週に３～４日」、「週に１～２日」の合計）過ごすと回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 65.8%、非生活困難層で 70.6%であるのに対し、生活困窮層では 45.0%、周辺層では 51.1%となっています。中学２年生では、全体で 35.6%、非生活困難層で 38.1%であるのに対し、生活困窮層では 29.5%、周辺層では 31.6%となっており、生活困難度が高いほど塾や習いごとに通う割合が低い傾向がみられます。





塾や習いごとをする場所

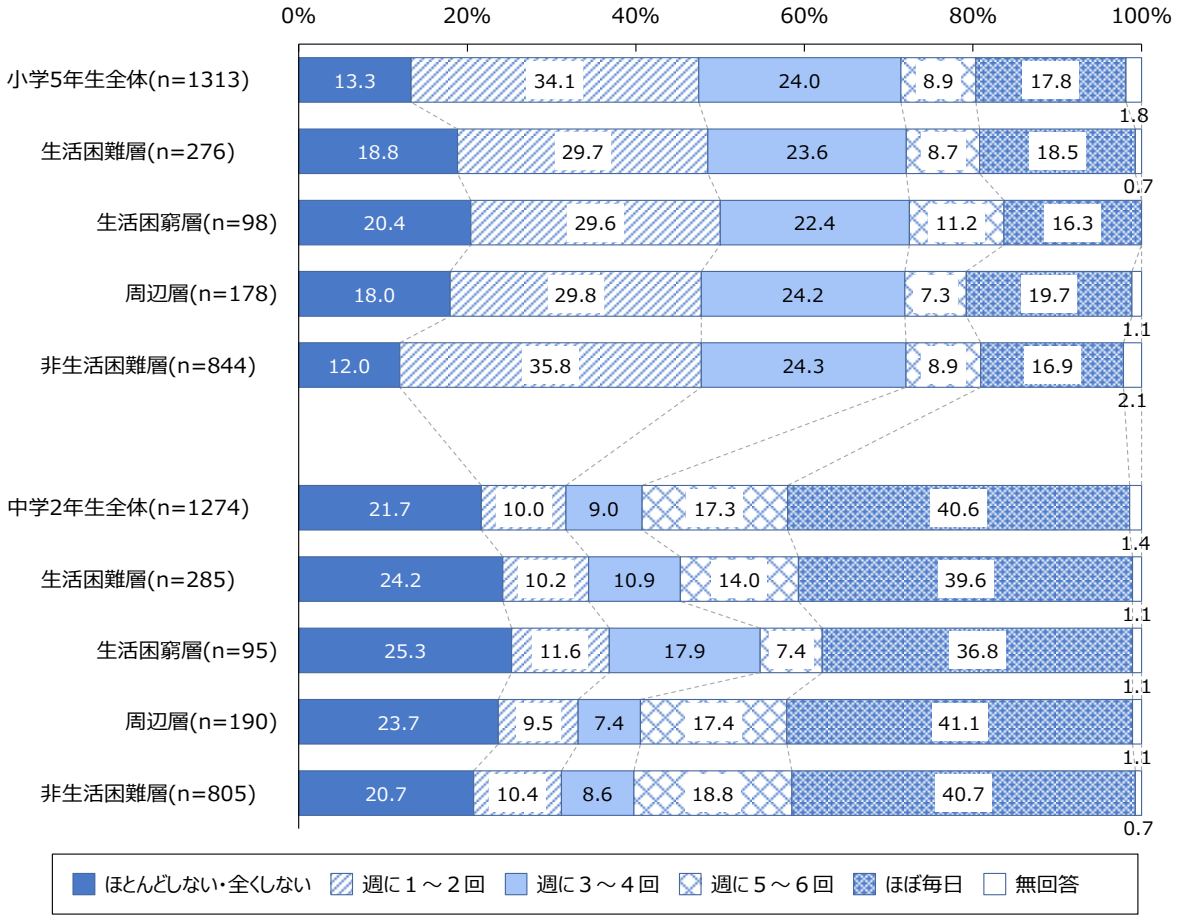


3　活動の状況

(1)　運動の状況

30 分以上体を動かす遊びや習いごとについて、「ほとんどしない・全くしない」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 13.3%、非生活困難層で 12.0%であるのに対し、生活困窮層では 20.4%、周辺層では 18.0%となっています。また、中学２年生では、全体で 21.7%、非生活困難層で 20.7%であるのに対し、生活困窮層では 25.3%、周辺層では 23.7%となっており、生活困難度が高いほど運動をしない子どもの割合が高い傾向がみられます。

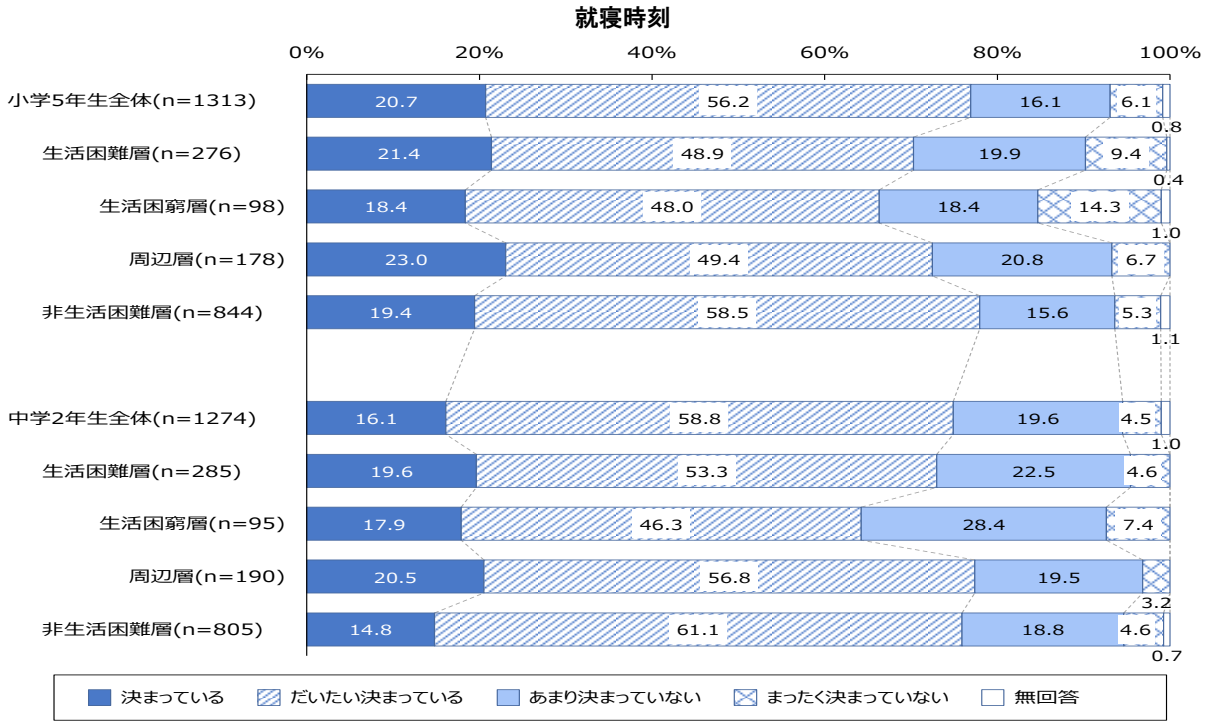
30 分以上体を動かす遊びや習いごとをする頻度

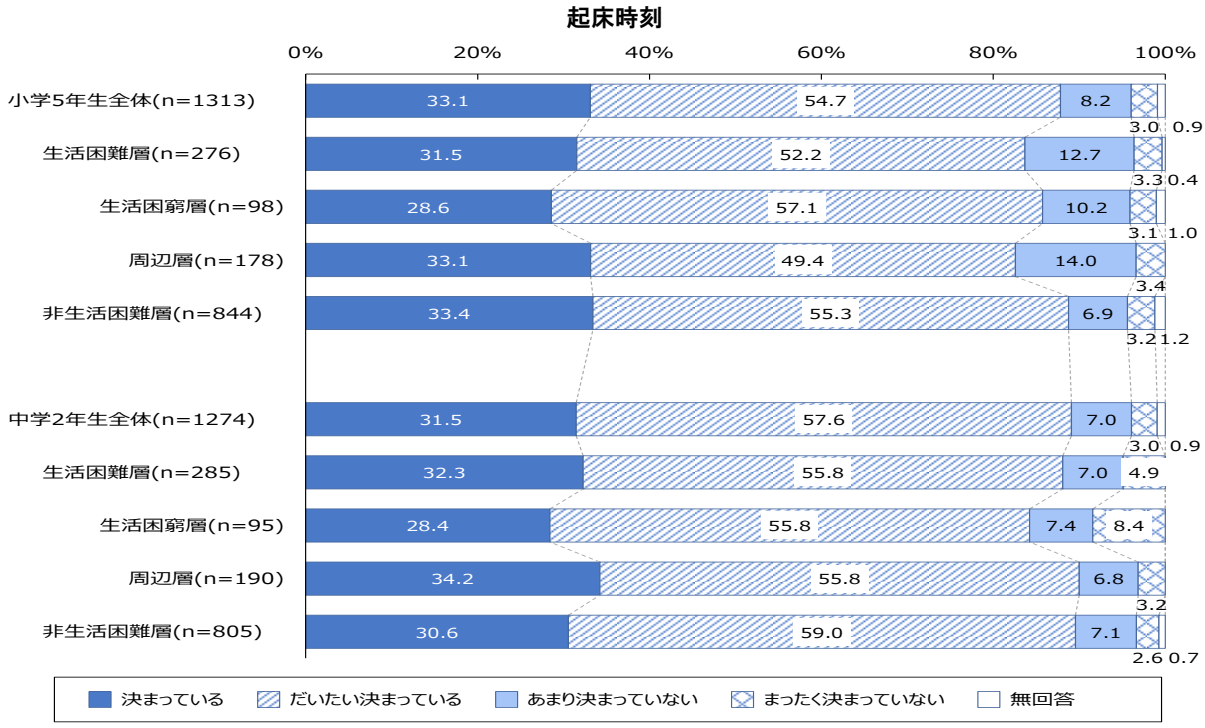


⑵　就寝・起床時刻

就寝時刻について、『決まっていない』（「まったく決まっていない」、「あまり決まっていない」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 22.2%、非生活困難層で 20.9%であるのに対し、生活困窮層では32.7%、周辺層では27.5%となっており、中学２年生では、全体で24.1%、非生活困難層で 23.4%であるのに対し、生活困窮層では 35.8%、周辺層では 22.7%となっています。

また、起床時刻について、『決まっていない』と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 11.2%、非生活困難層で 10.1%であるのに対し、生活困窮層では 13.3%、周辺層では 17.4%となっています。中学２年生では、全体で 10.0%、非生活困難層で 9.7%であるのに対し、生活困窮層では 15.8%、周辺層では 10.0%となっており、非生活困難層より生活困難層のほうが規則正しい睡眠習慣が定着していない割合が高くなっています。

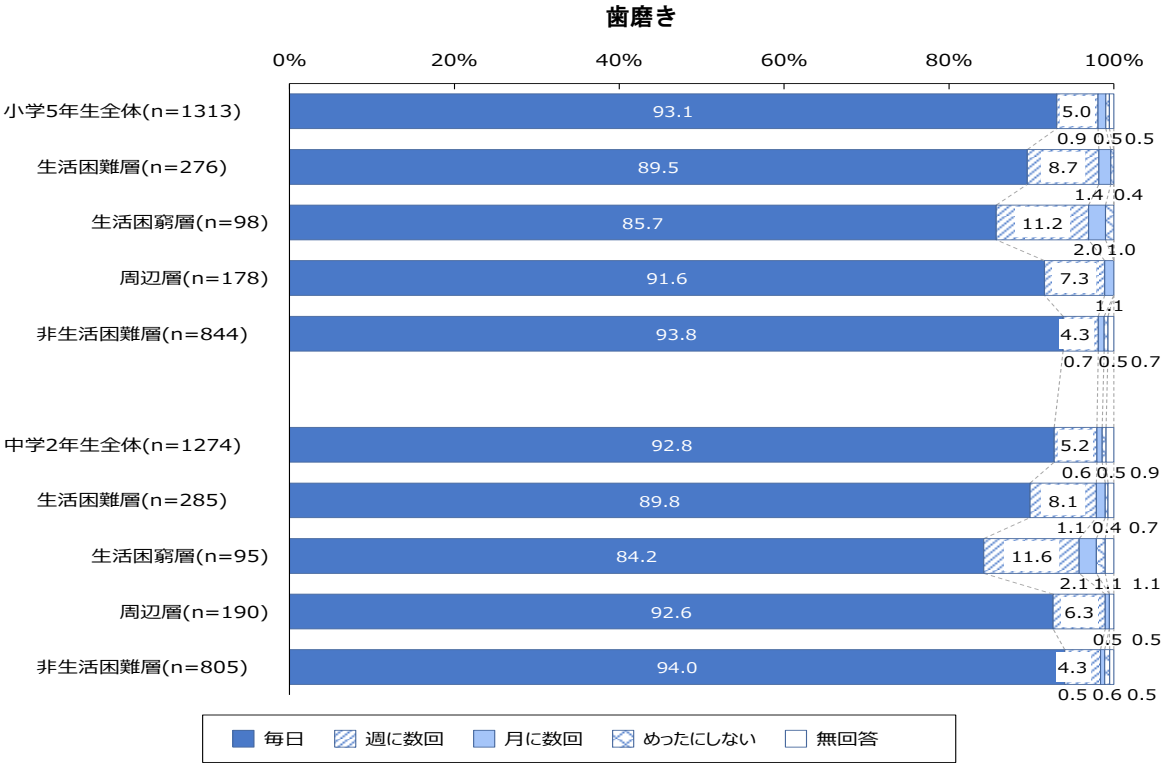


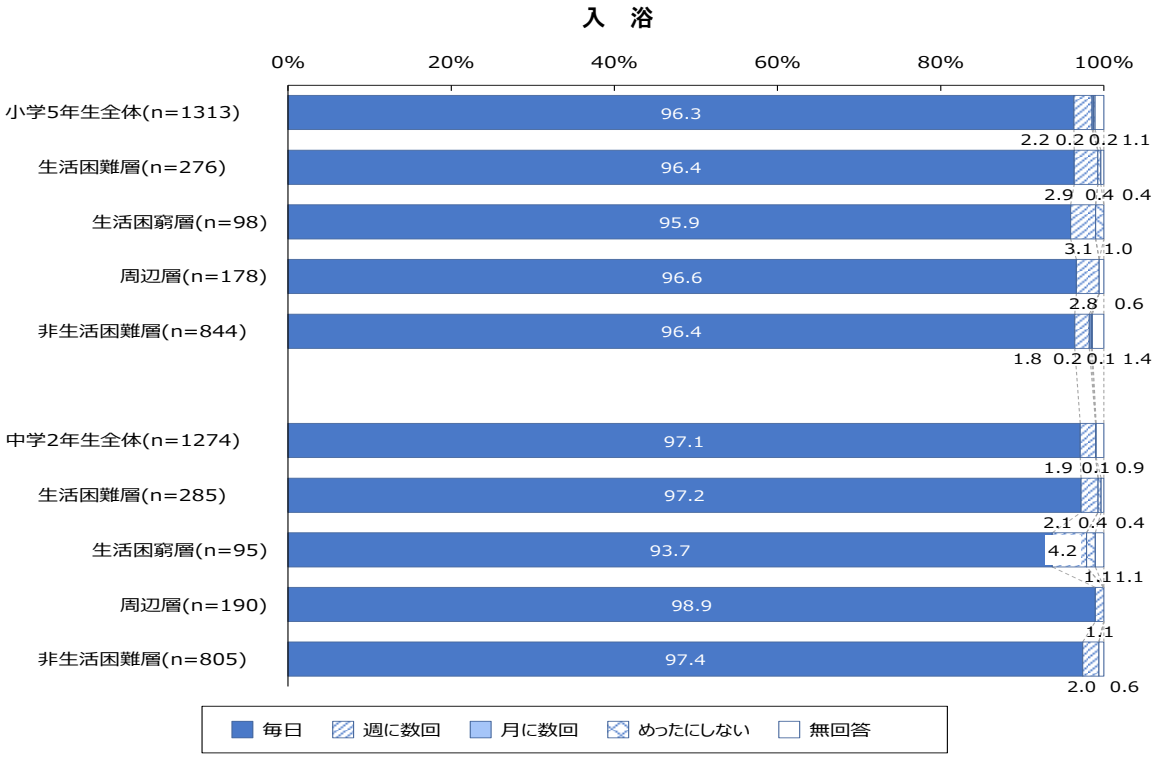


⑶　歯磨き･入浴の状況

歯磨きの頻度について、『毎日はしない』（「めったにしない」、「月に数回」、「週に数回」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 6.4%、非生活困難層で 5.5%であるのに対し、生活困窮層では 14.2%、周辺層では 8.4%となっており、中学２年生では、全体で 6.3%、非生活困難層で 5.4%であるのに対し、生活困窮層では 14.8%、周辺層では 6.8%となっています。

また、入浴の頻度について、『毎日は入らない』（「めったにしない」、「月に数回」、「週に数回」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 2.6%、非生活困難層で 2.1%であるのに対し、生活困窮層では 4.1%、周辺層では 2.8%となっています。中学２年生では、全体及び非生活困難層で 2.0%であるのに対し、生活困窮層では 5.3%、周辺層では 1.1%となっており、非生活困難層より生活困難層のほうが衛生習慣が定着していない割合が高くなっています。





Ⅴ　子どもの健康と自己肯定感

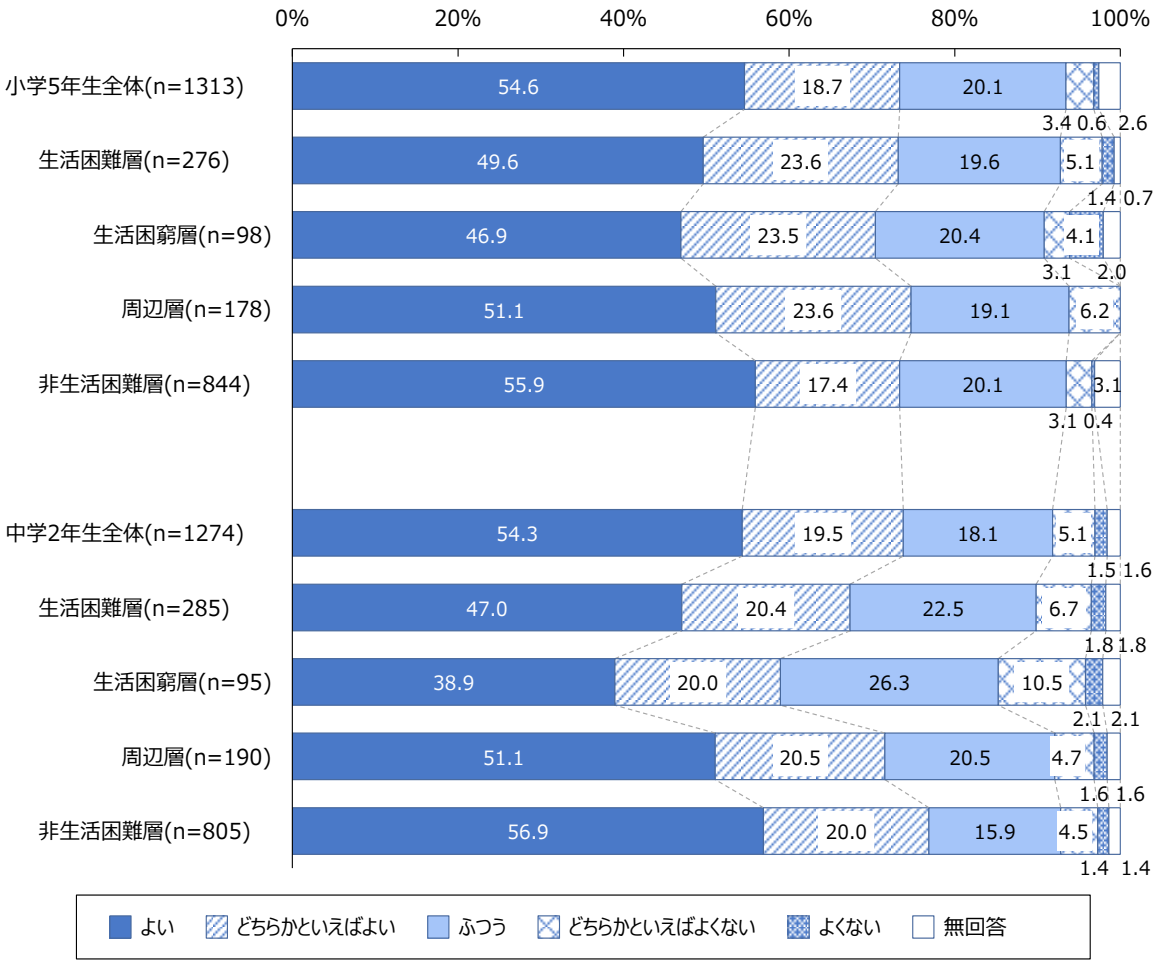
1　子どもの健康状態

(1)　健康状態

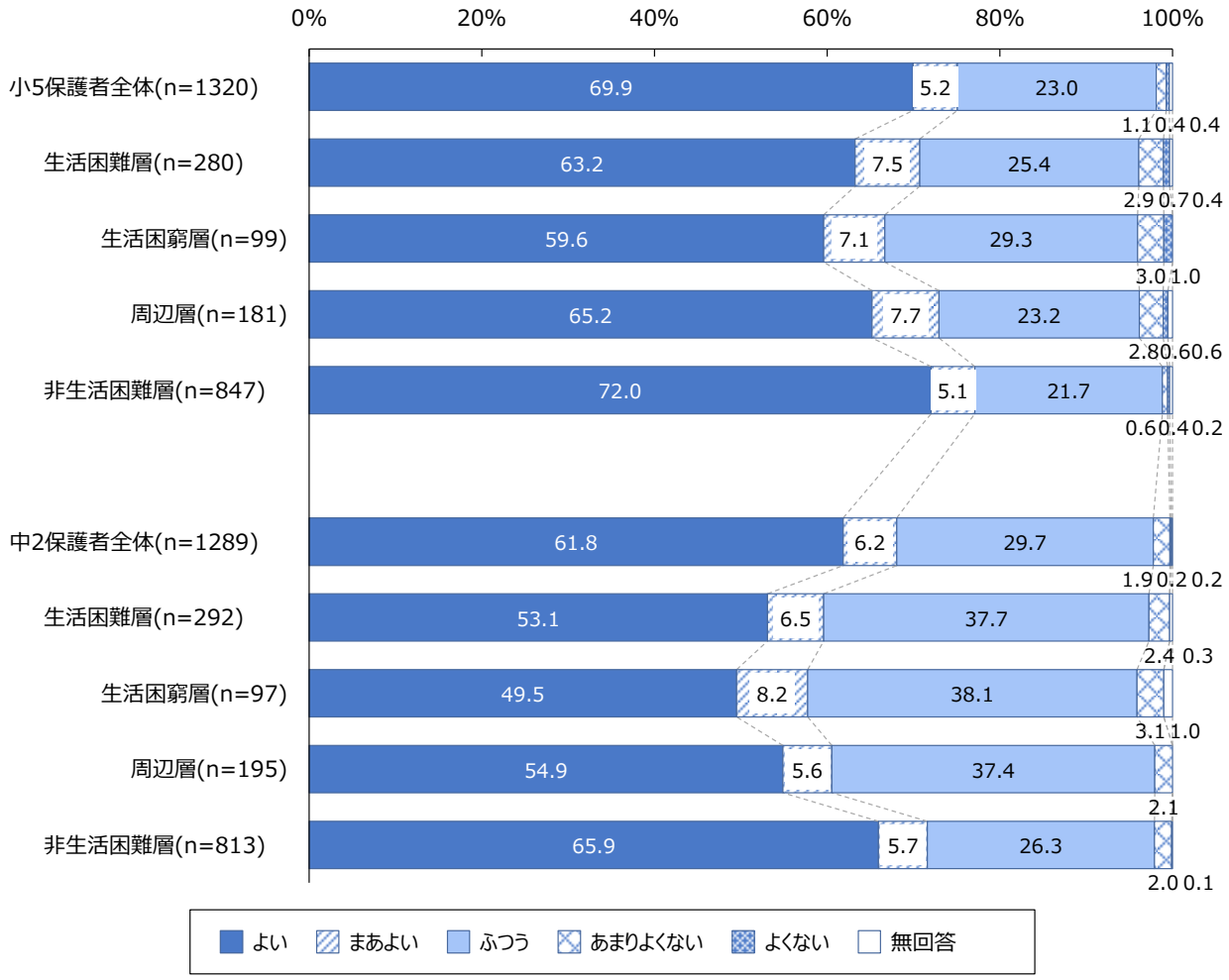
子どもの主観的な健康状態について、『よくない』（「よくない」、「どちらかといえばよくない」の合計）と回答した割合は、小学５年生では、全体で 4.0%、非生活困難層で 3.5%であるのに対し、生活困窮層では 7.2%、周辺層では 6.2%となっています。また、中学２年生では、全体で 6.6%、非生活困難層で 5.9%であるのに対し、生活困窮層では 12.6%、周辺層では 6.3%となっており、生活困難度が高いほど主観的健康状態がよくない傾向がみられます。

保護者からみた子どもの健康状態について、『よくない』（「よくない」、「あまりよくない」の合計）と回答した割合は、小学５年生では、全体で 1.5%、非生活困難層で 1.0%であるのに対し、生活困窮層では 4.0%、周辺層では 3.4%となっており、生活困難度が高いほどよくない傾向がみられます。中学２年生では、全体及び非生活困難層で 2.1%であるのに対し、生活困窮層では 3.1%、周辺層では 2.1%となっており、生活困難度による差はあまりありません。

子どもの主観的健康状態



保護者からみた子どもの健康状態



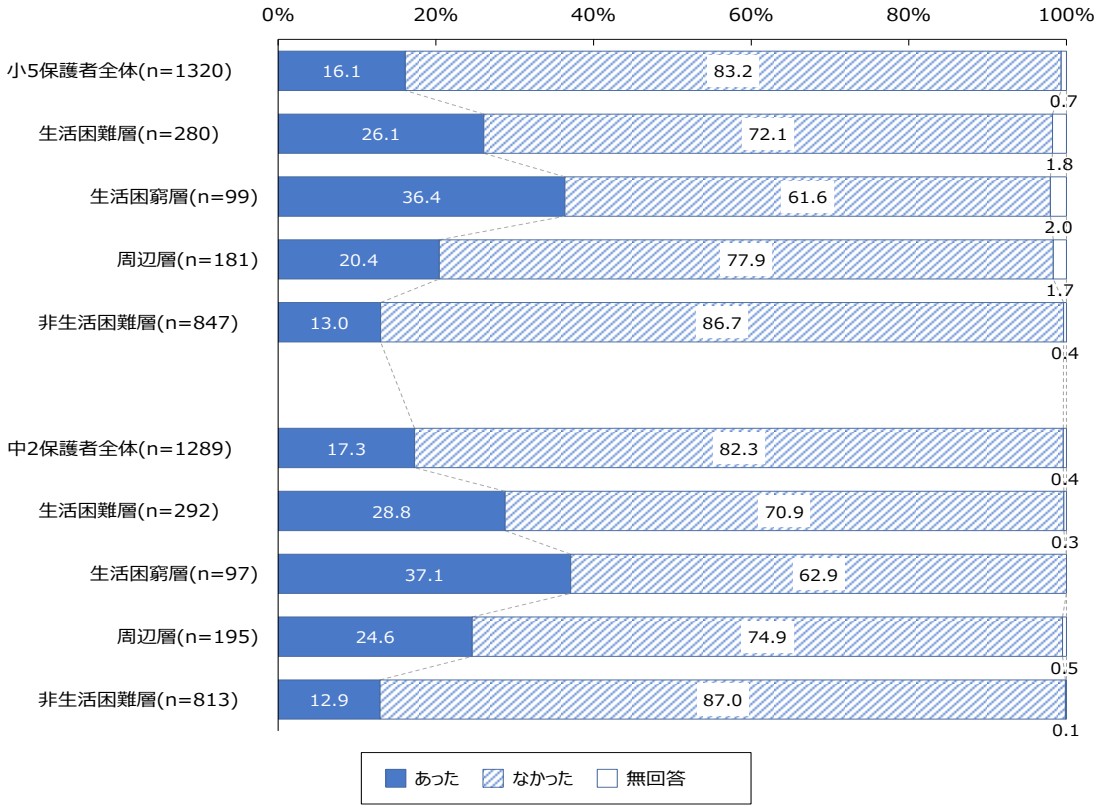
⑵　医療機関受診抑制の経験

子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった経験について、「あった」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 16.1%、非生活困難層で 13.0%であるのに対し、生活困窮層では 36.4%、周辺層では 20.4%となっています。また、中学２年生では、全体で 17.3%、非生活困難層で 12.9%であるのに対し、生活困窮層では 37.1%、周辺層では 24.6%となっており、生活困難度が高いほど医療受診を抑制する傾向がみられます。

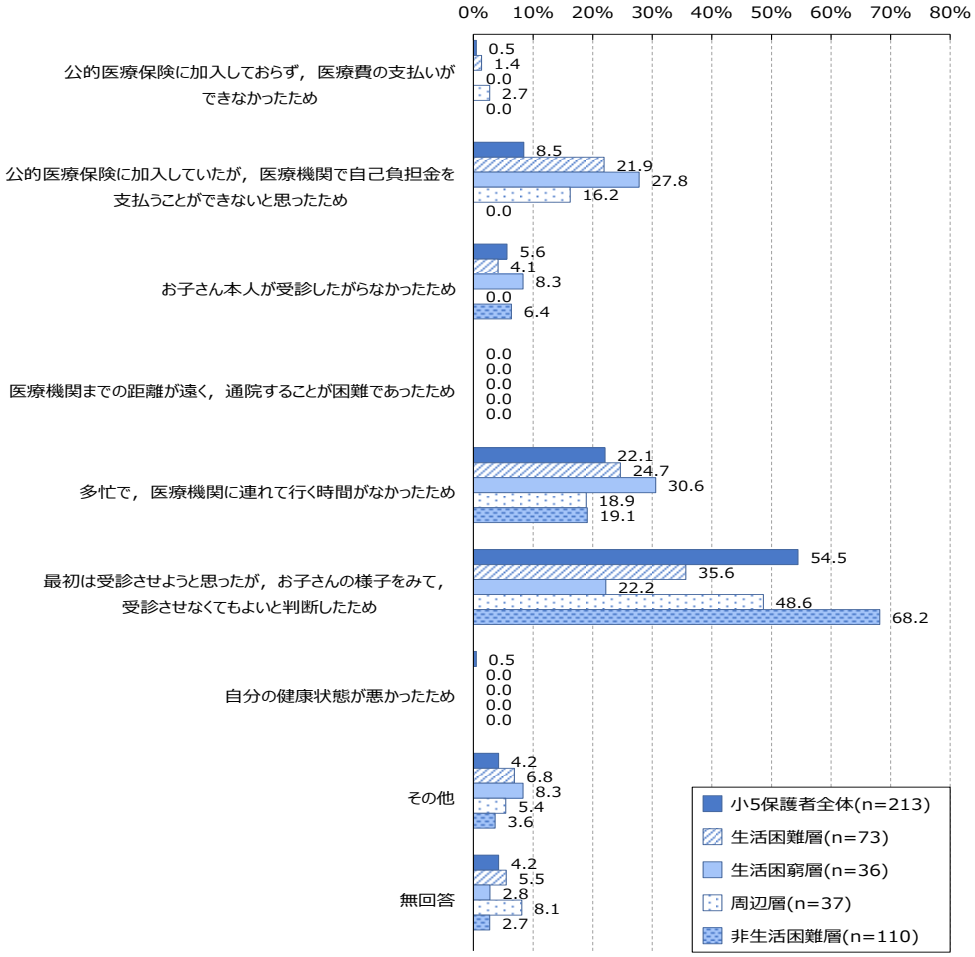
受診抑制理由について、小学５年生においては、非生活困難層では「子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断した」が 68.2%で最も多く、次いで「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」が 19.1%、「本人が受診したがらなかった」が 6.4%となっています。これに対し、生活困窮層では「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」が 30.6%で最も多く、次いで「医療機関で自己負担金を支払うことができないと思った」が 27.8%、「子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断した」が 22.2%となっており、周辺層では「子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断した」が 48.6%で最も多く、次いで「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」が 18.9%、「医療機関で自己負担金を支払うことができないと思った」が 16.2%となっています。

中学２年生においては、非生活困難層では「子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断した」が 61.9%で最も多く、次いで「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」が 16.2%、「本人が受診したがらなかった」が 13.3%となっています。これに対し、生活困窮層では「子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断した」が 33.3%で最も多く、次いで「医療機関で自己負担金を支払うことができないと思った」が 22.2%、「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」「本人が受診したがらなかった」が 13.9%となっており、周辺層では「子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断した」が 45.8%で最も多く、次いで「多忙で医療機関に連れて行く時間がなかった」が 29.2%、「本人が受診したがらなかった」が 12.5%となっており、非生活困難層に比べて生活困難層では経済的理由で受診抑制している割合が高くなっています。

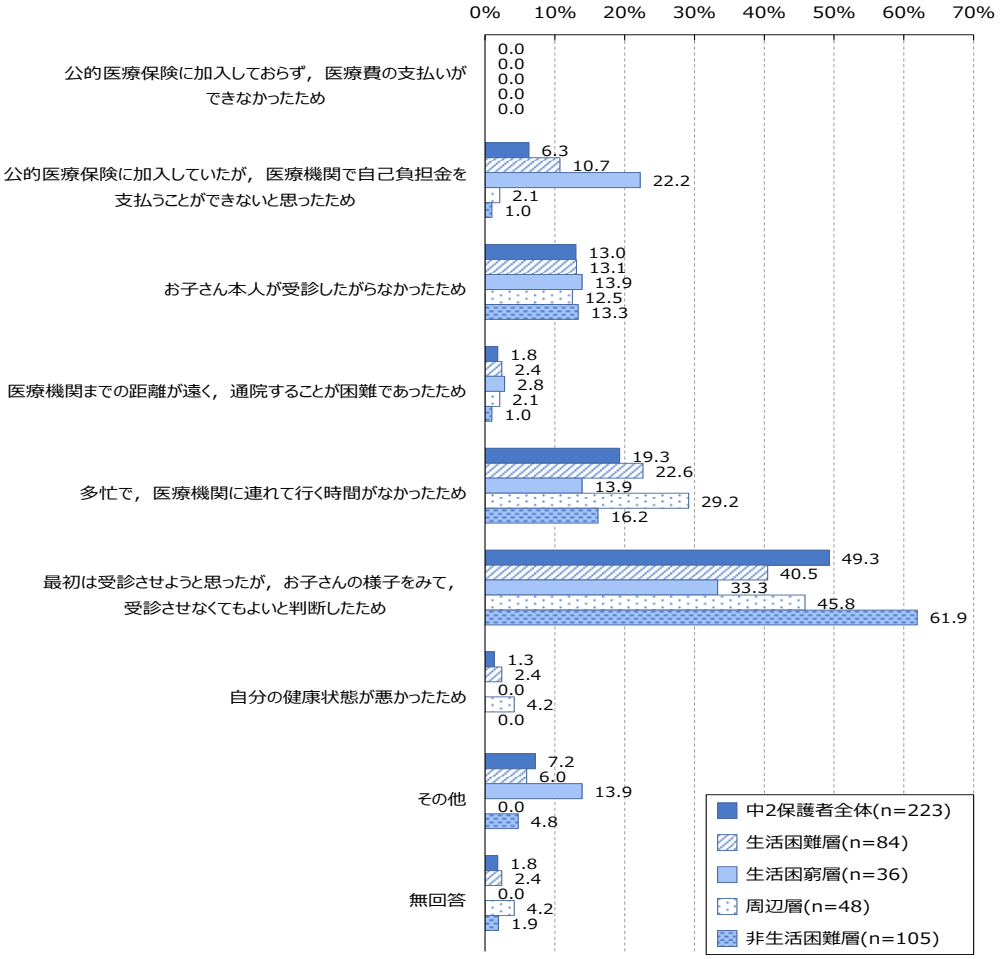
子どもの医療機関受診抑制の経験



医療機関受診抑制の経験の理由（小学５年生保護者）



医療機関受診抑制の経験の理由（中学２年生保護者）

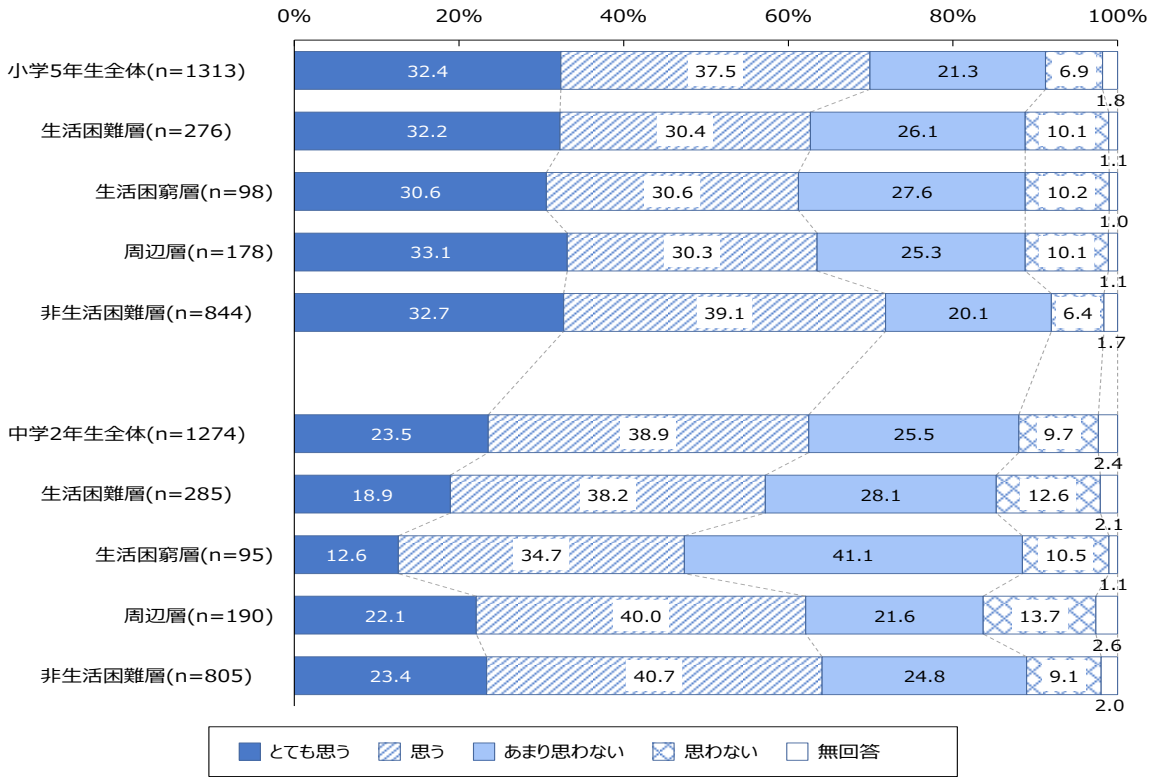


2　自己肯定感等

(1)　自己肯定感

自分のことを肯定的に思っているかについて、『思う』(「とても思う」、「思う」の合計）と回答した子どもの割合は、小学５年生、中学２年生ともに、非生活困難層に比べ生活困難層は低く、生活困難度が高いほど自己肯定感が低い傾向がみられます。特に、自分は価値のある人間だと『思う』と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で 69.9%、非生活困難層で 71.8%であるのに対し、生活困窮層では 61.2%、周辺層では 63.4%となっています。また、中学２年生では、全体で 62.4%、非生活困難層で 64.1%であるのに対し、生活困窮層では 47.3%、周辺層では 62.1%となっています。

自分は価値のある人間だ

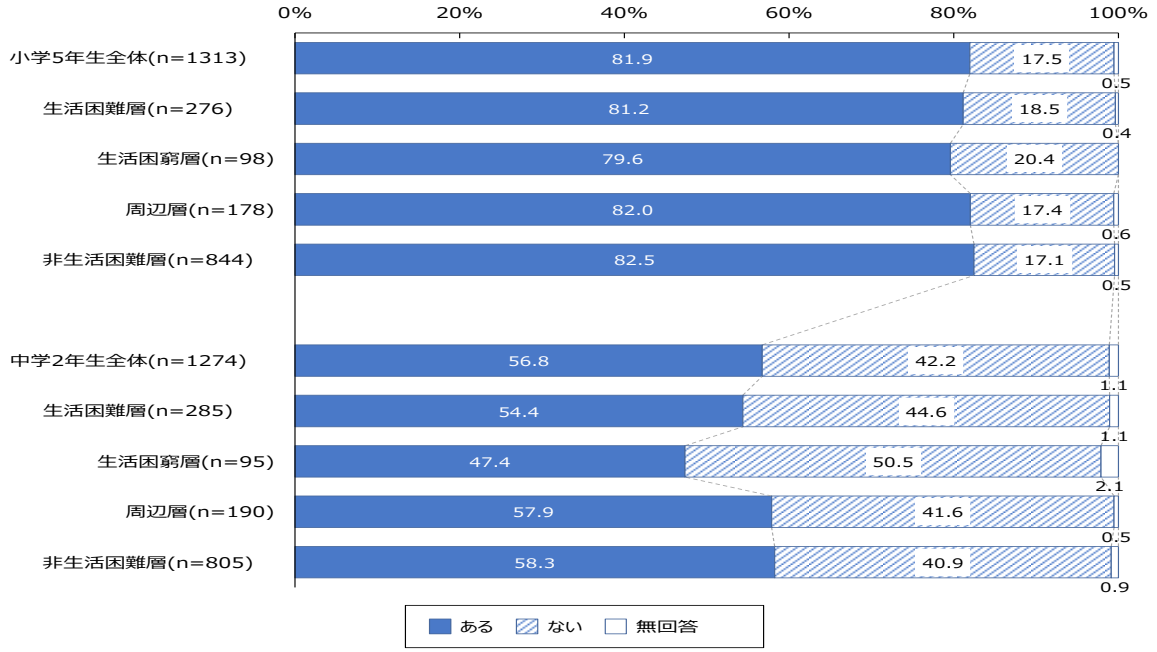


⑵　将来の夢やつきたい職業

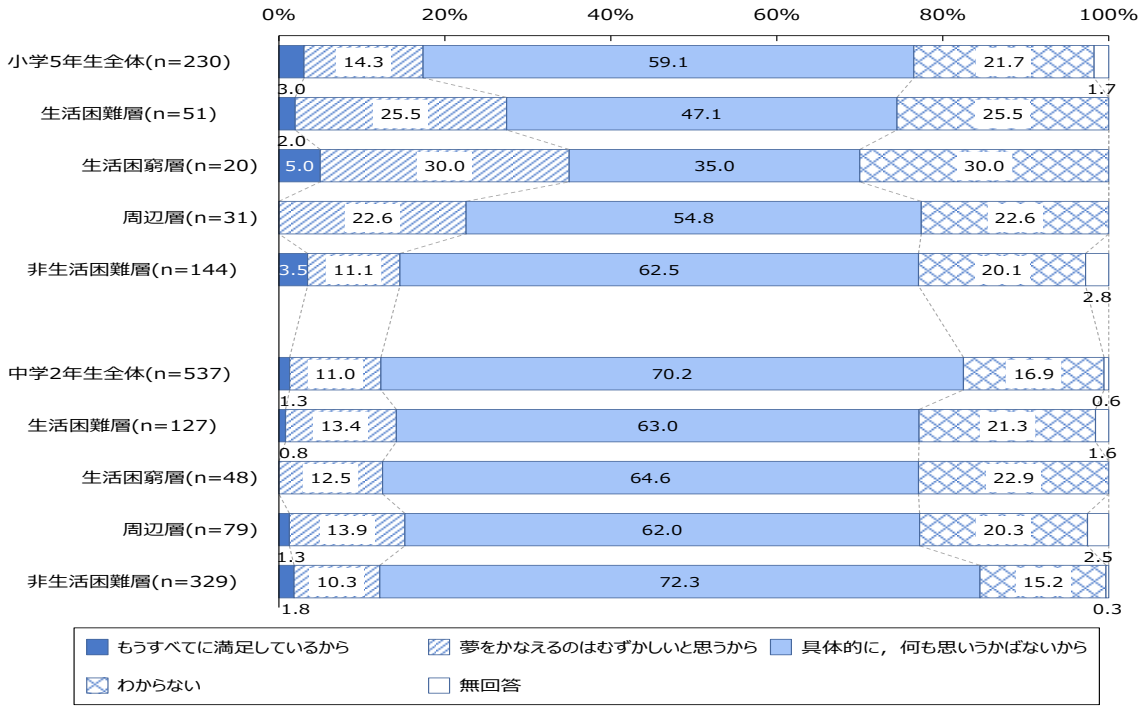
将来の夢やつきたい職業について、「ある」と回答した子どもの割合は、小学５年生では、全体で81.9%、非生活困難層で82.5%、生活困窮層で79.6%、周辺層で82.0%となっており、生活困難度による差はあまりみられません。一方、中学２年生では、全体で56.8%、非生活困難層で58.3%であるのに対し、生活困窮層では47.4%、周辺層では57.9%となっており、生活困難度が高いほど夢やつきたい職業がない子どもの割合が高い傾向がみられます。

また、将来の夢などが「ない」と回答した子どものうち、「夢をかなえるのはむずかしいと思うから」と回答した子どもは、小学５年生では、全体で14.3%、非生活困難層で11.1%であるのに対し、生活困窮層では30.0%、周辺層では22.6%となっており、生活困難度が高いほど夢をかなえるのは難しいと感じている子どもの割合が高い傾向がみられます。一方、中学２年生では、全体で11.0%、非生活困難層で10.3%であるのに対し、生活困窮層では12.5%、周辺層では13.9%となっており、生活困難度による差はあまりみられません。

将来の夢の有無



夢やつきたい職業がない理由

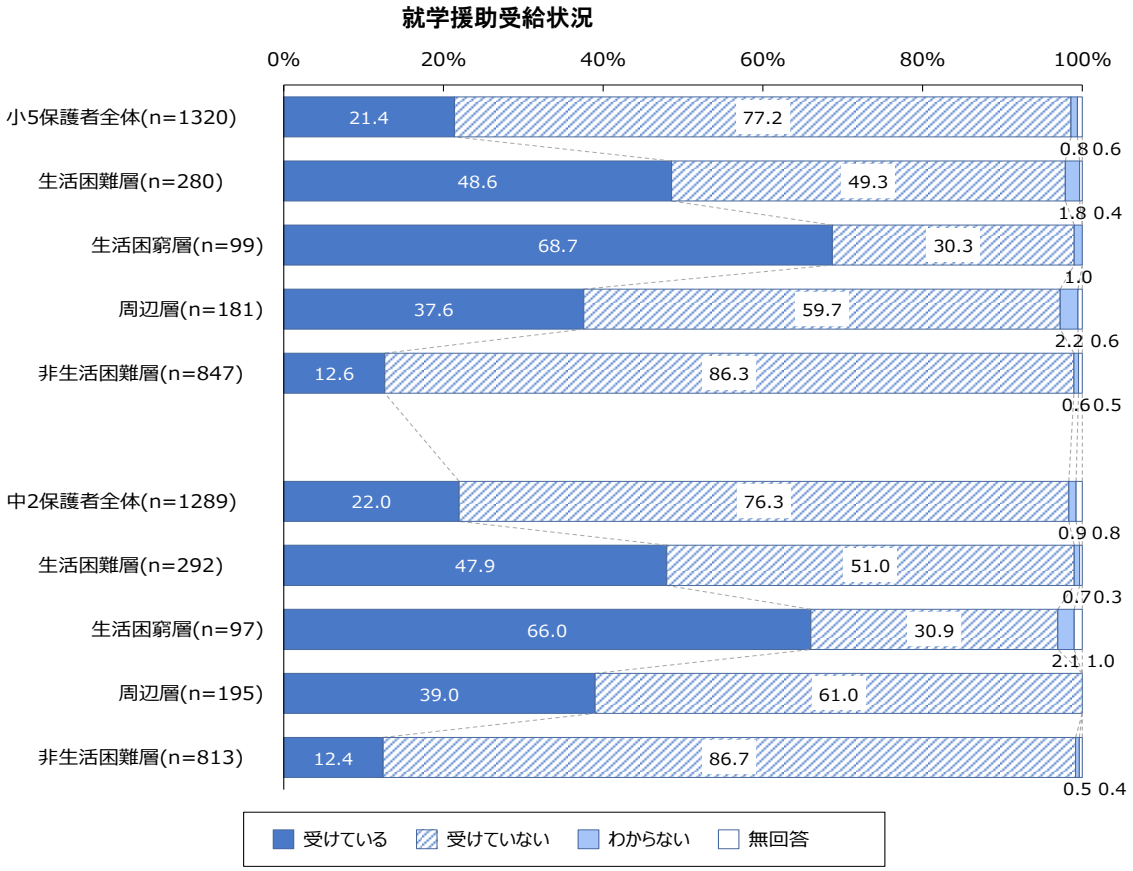


Ⅵ　子育てと各種制度・サービス

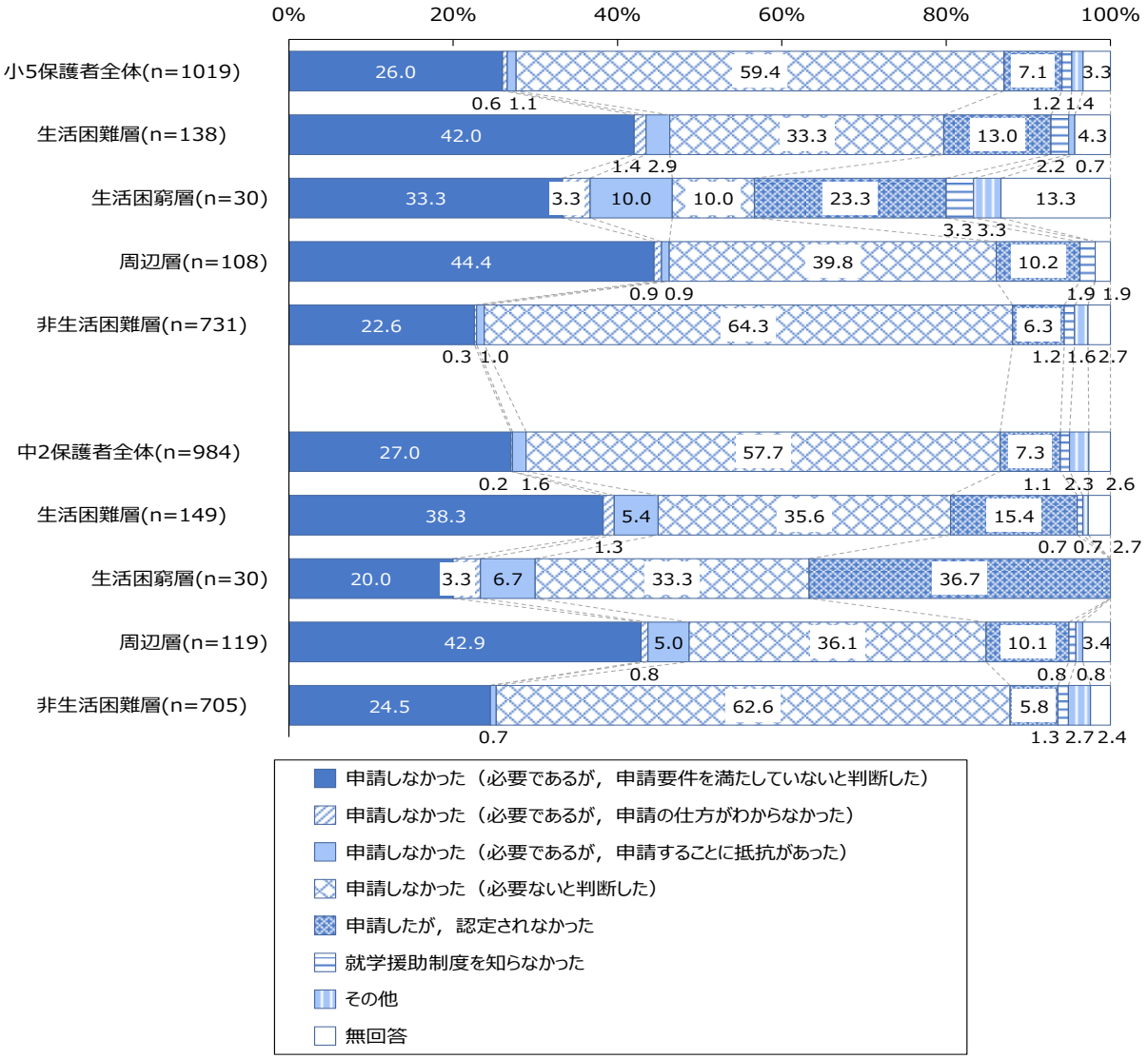
1　就学援助

就学援助の受給状況について、「受けている」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で21.4%、非生活困難層で12.6%であるのに対し、生活困窮層では68.7%、周辺層では37.6%となっています。中学２年生では、全体で 22.0%、非生活困難層で 12.4%であるのに対し、生活困窮層では66.0%、周辺層では39.0%となっており、生活困難度が高いほど就学援助を受給している割合が高い傾向がみられます。

また、就学援助を受けていない理由について、『必要であるが申請しなかった』(「要件を満たしていないと判断した」、「申請の仕方がわからなかった」、「申請することに抵抗があった」の合計）と答えた保護者の割合は、小学５年生では、全体で27.7%、非生活困難層で23.9%であるのに対し、生活困窮層では46.6%、周辺層では46.2%となっています。中学２年生では、全体で28.8%、非生活困難層で25.2%であるのに対し、生活困窮層では30.0%、周辺層では48.7%となっており、非生活困難層に比べ生活困難層で就学援助が必要であると感じているが実際には申請していない割合が高くなっています。

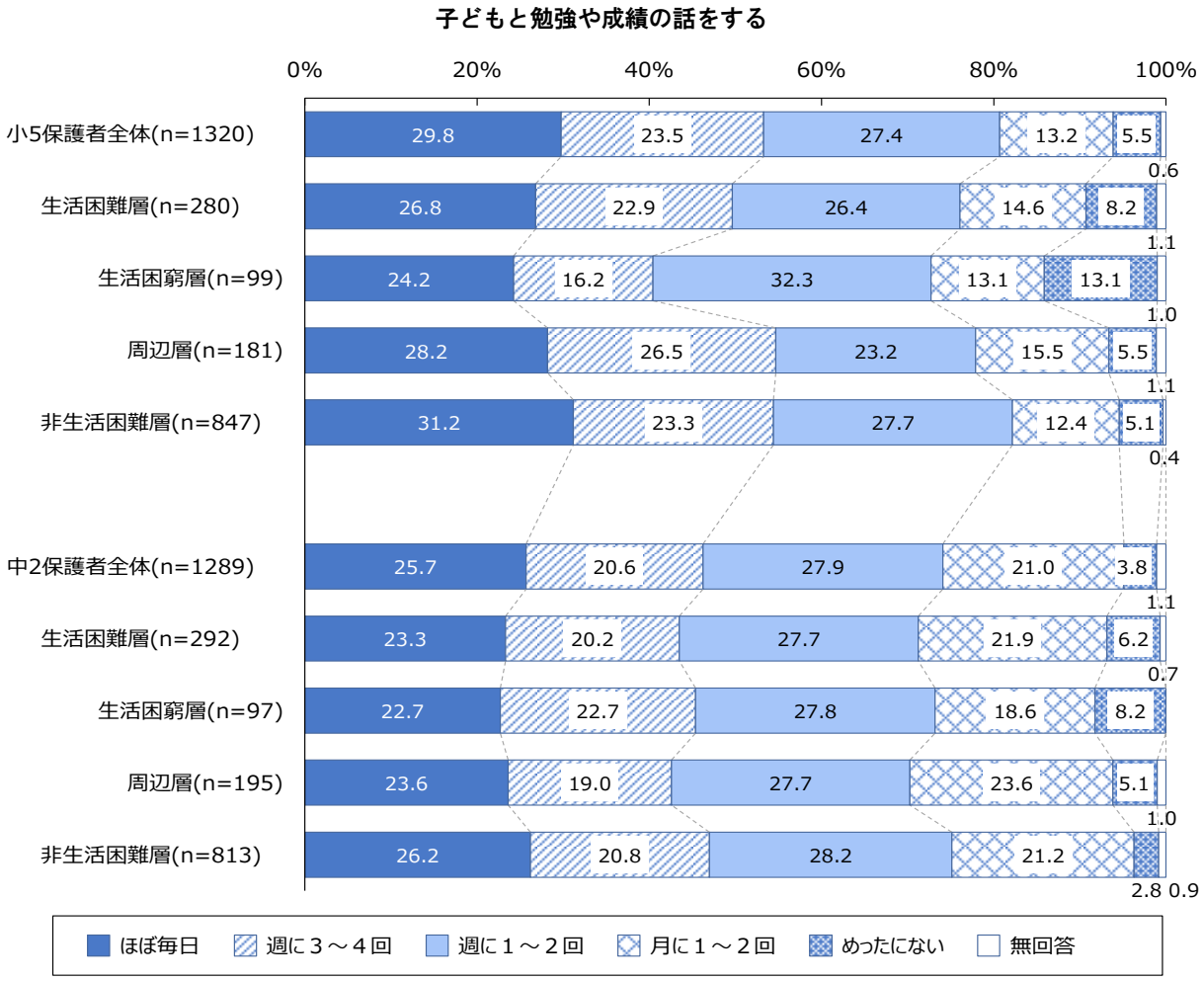


就学援助を受けていない理由



２　子どもとのかかわりの頻度

子どもとのかかわりについて、子どもと勉強や成績の話をすることが「めったにない」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 5.5%、非生活困難層で 5.1%であるのに対し、生活困窮層では 13.1%、周辺層では 5.5%となっています。また、中学２年生では、全体で 3.8%、非生活困難層で 2.8%であるのに対し、生活困窮層では 8.2%、周辺層では 5.1%となっており、生活困難度が高いほど子どもと勉強や成績の話をすることがめったにない保護者の割合が高い傾向がみられます。



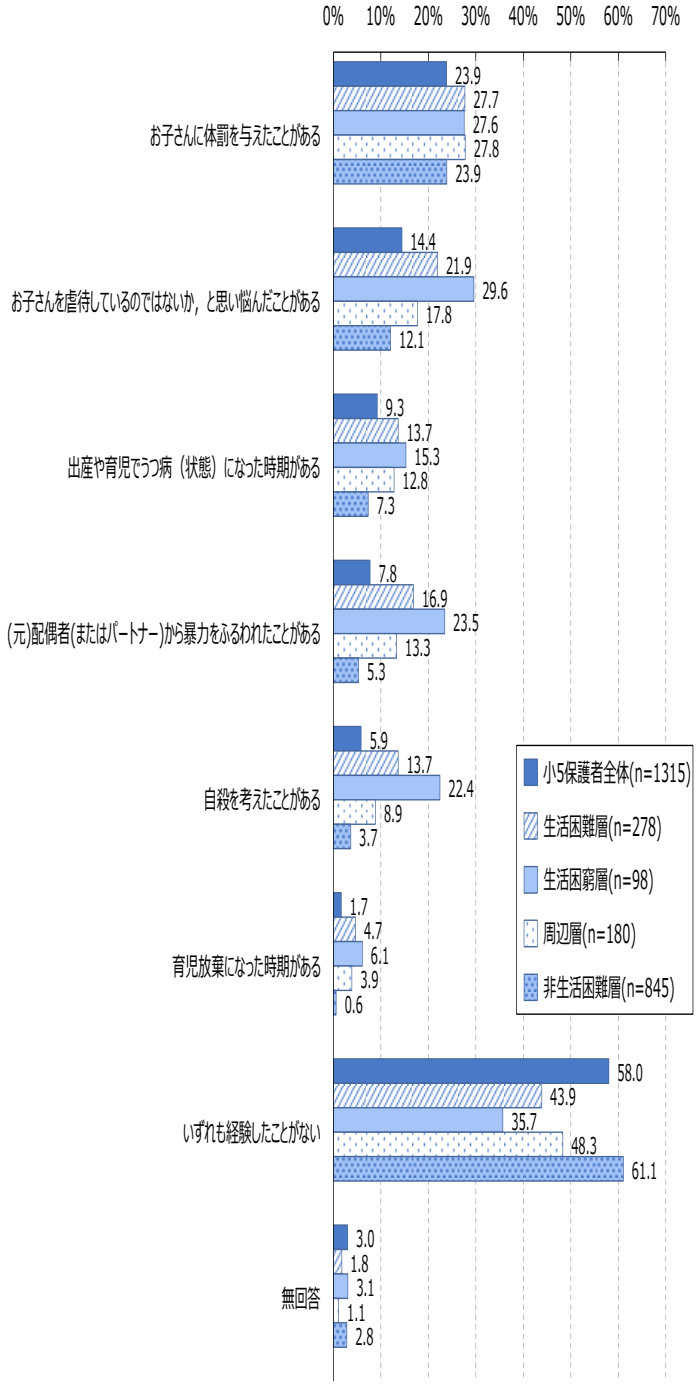
３　子育て上の経験

子育て中に子どもに体罰を与えた経験などの有無について、「ある」と回答した保護者の割合は、すべての項目で非生活困難層に比べ生活困難層は高くなっています。特に、子どもを虐待しているのではないかと思い悩んだ経験が「ある」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 14.4%、非生活困難層で 12.1%であるのに対し、生活困窮層では 29.6%、周辺層では 17.8%となっており、中学２年生では、全体で 12.8%、非生活困難層で 10.4%であるのに対し、生活困窮層では 27.1%、周辺層では 18.0%となっています。

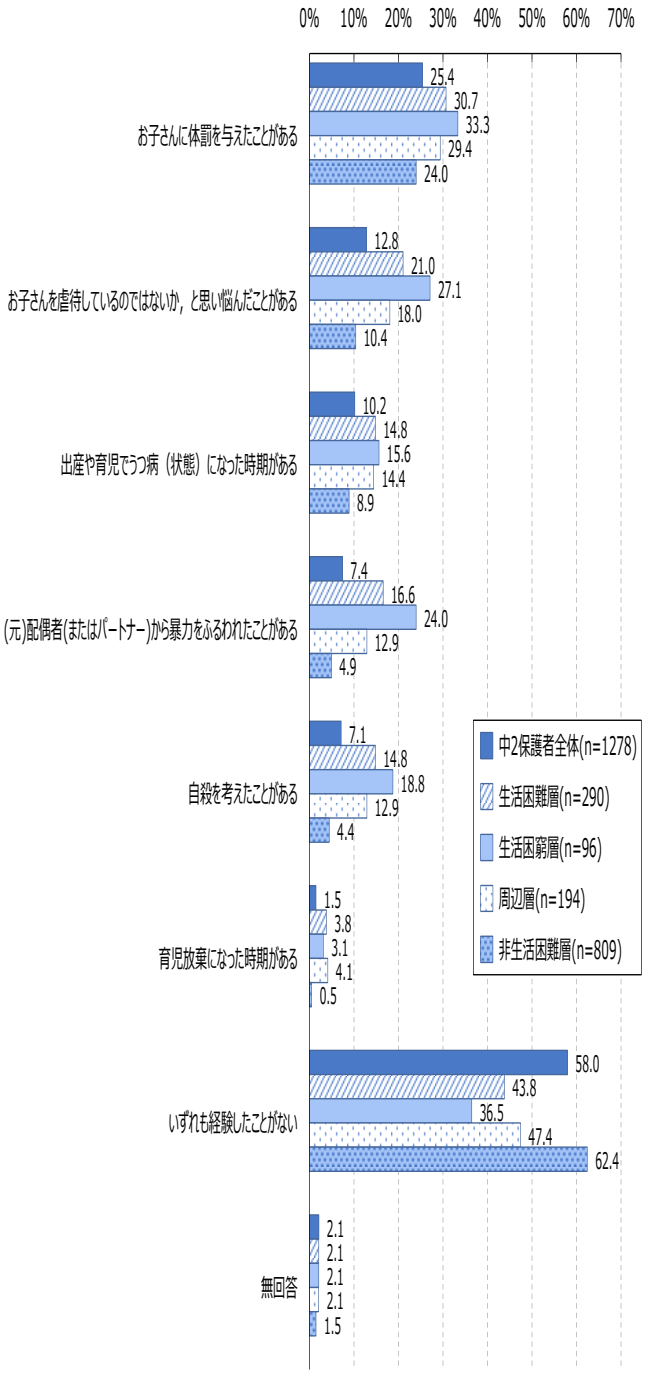
また、(元)配偶者（またはパートナー）から暴力をふるわれた経験については、小学５年生では、全体で 7.8%、非生活困難層で 5.3%であるのに対し、生活困窮層では 23.5%、周辺層では 13.3%となっており、中学２年生では、全体で 7.4%、非生活困難層で 4.9%であるのに対し、生活困窮層では 24.0%、周辺層では 12.9%となっています。

子育てにかかわってからの経験

（小学５年生保護者）



（中学２年生保護者）

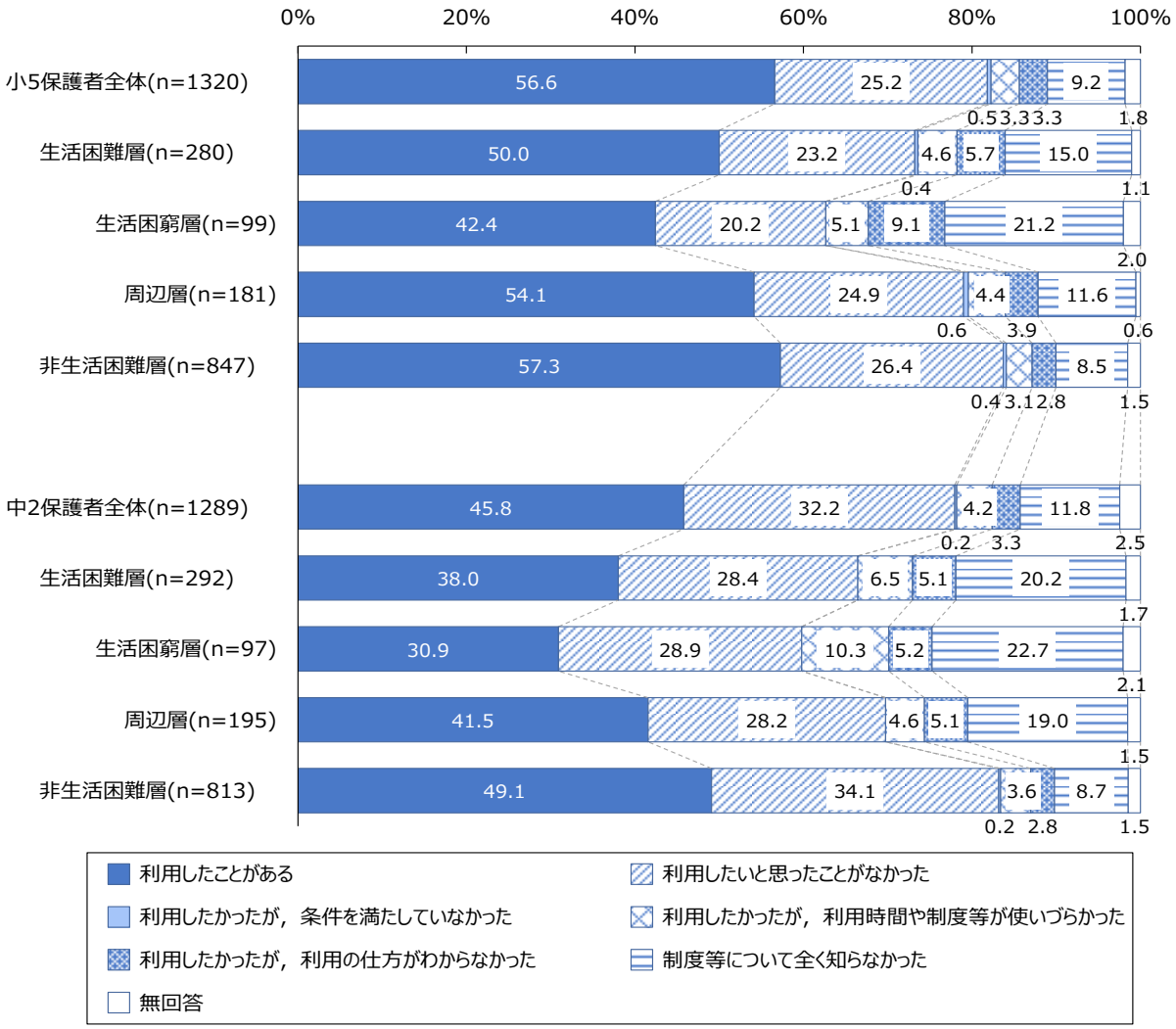


4　制度・サービスの利用

(1)　各種支援制度の利用経験

地域子育て支援センターなどの各種支援制度の利用経験について、地域子育て支援センター･子育てひろばについては、「利用したことがある」保護者の割合は、小学５年生では、全体で 56.6%、非生活困難層で 57.3%であるのに対し、生活困窮層では 42.4%、周辺層では 54.1%となっています。中学２年生では、全体で 45.8%、非生活困難層で 49.1%であるのに対し、生活困窮層では 30.9%、周辺層では 41.5%となっており、生活困難度が高いほど利用した経験が少ない傾向がみられます。

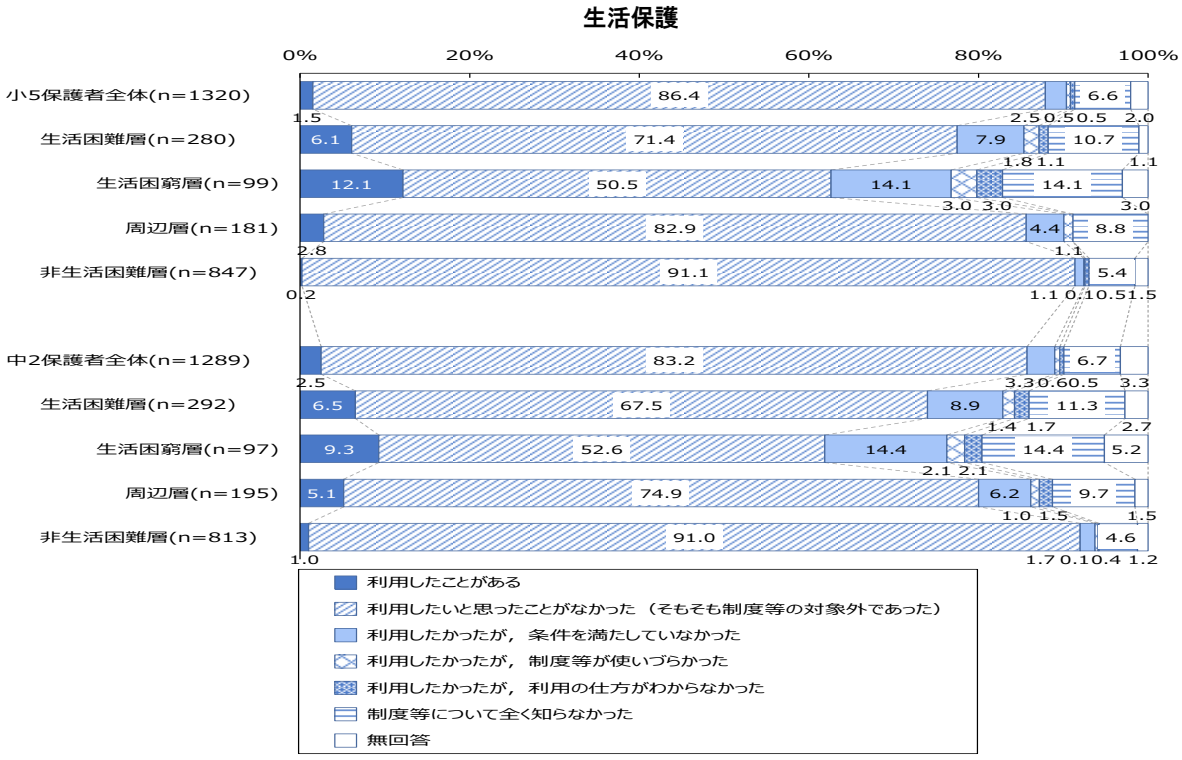
地域子育て支援センター･子育てひろば

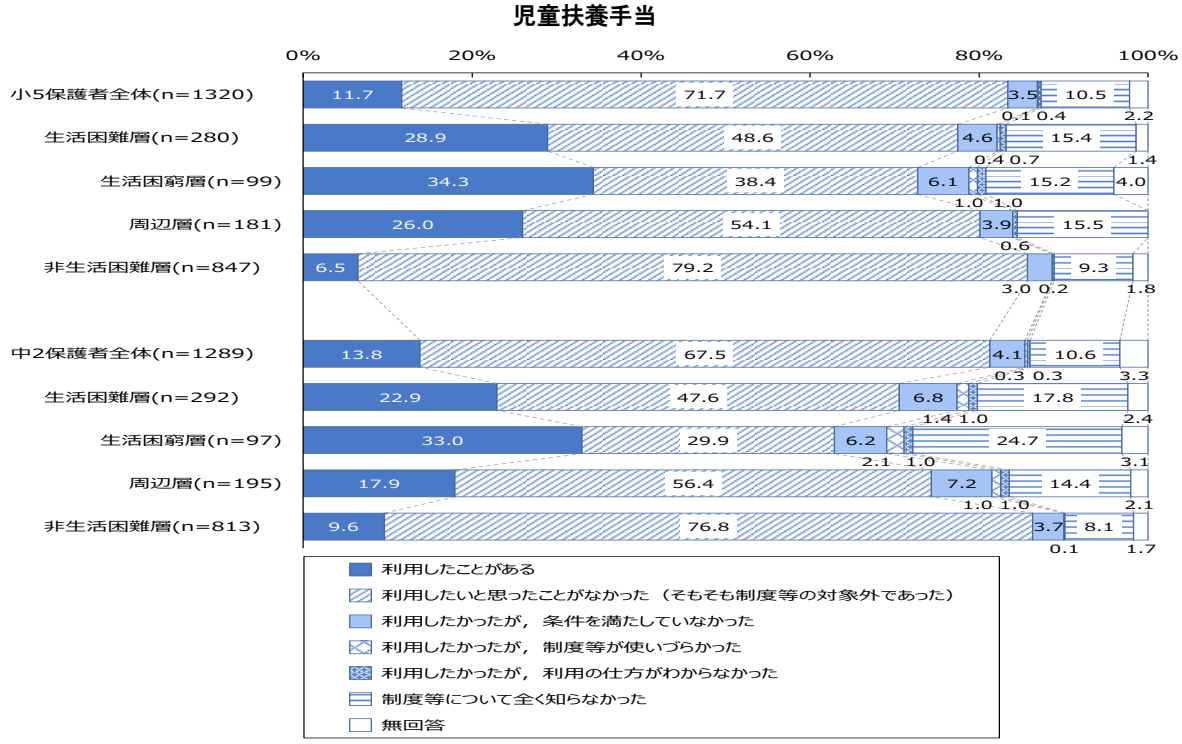


⑵　各種経済的支援制度の利用経験

各種経済的支援制度について、生活保護、児童扶養手当は、生活困難度が高いほど利用した経験が高い傾向がみられ、生活保護を「利用したことがある」保護者の割合は、小学５年生では、全体で 1.5%、非生活困難層で 0.2%であるのに対し、生活困窮層では 12.1%、周辺層では 2.8%となっており、中学２年生では、全体で 2.5%、非生活困難層で 1.0%であるのに対し、生活困窮層では 9.3%、周辺層では 5.1%となっています。

また、児童扶養手当を「利用したことがある」保護者の割合は、小学５年生では、全体で 11.7%、非生活困難層で 6.5%であるのに対し、生活困窮層では 34.3%、周辺層では 26.0%となっており、中学２年生では、全体で 13.8%、非生活困難層で 9.6%であるのに対し、生活困窮層では 33.0%、周辺層では 17.9%となっています。

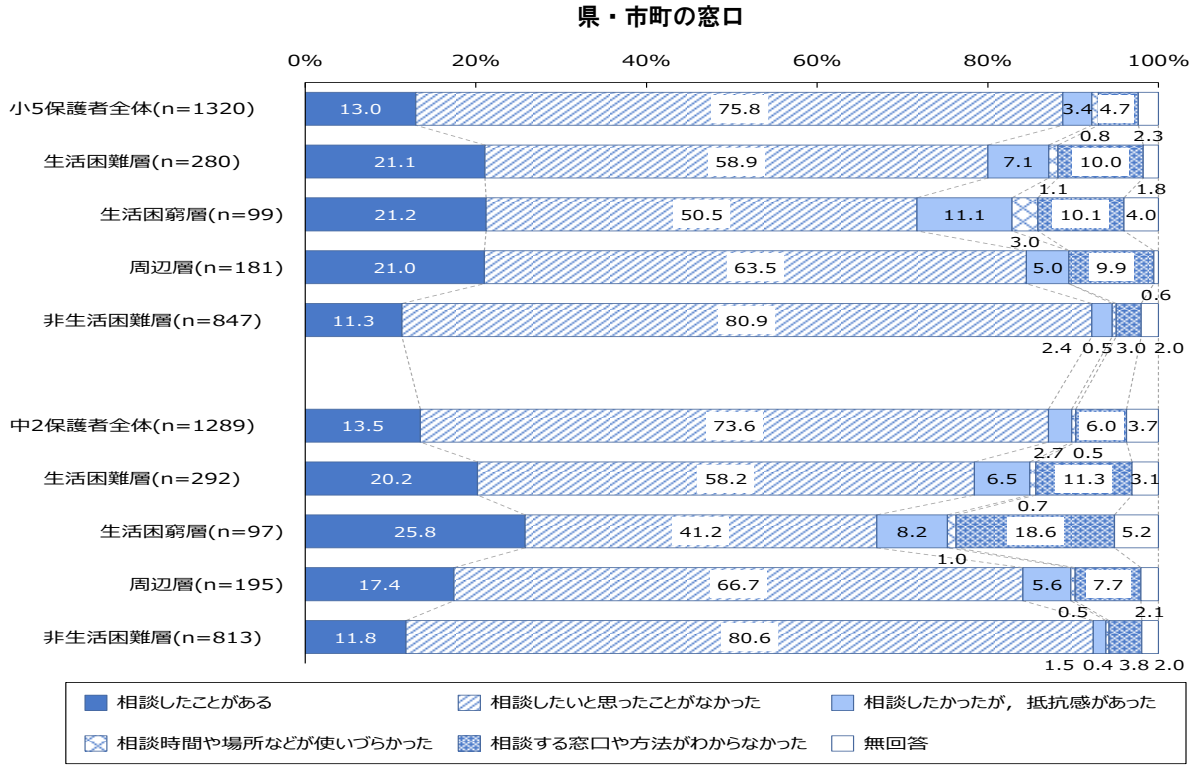


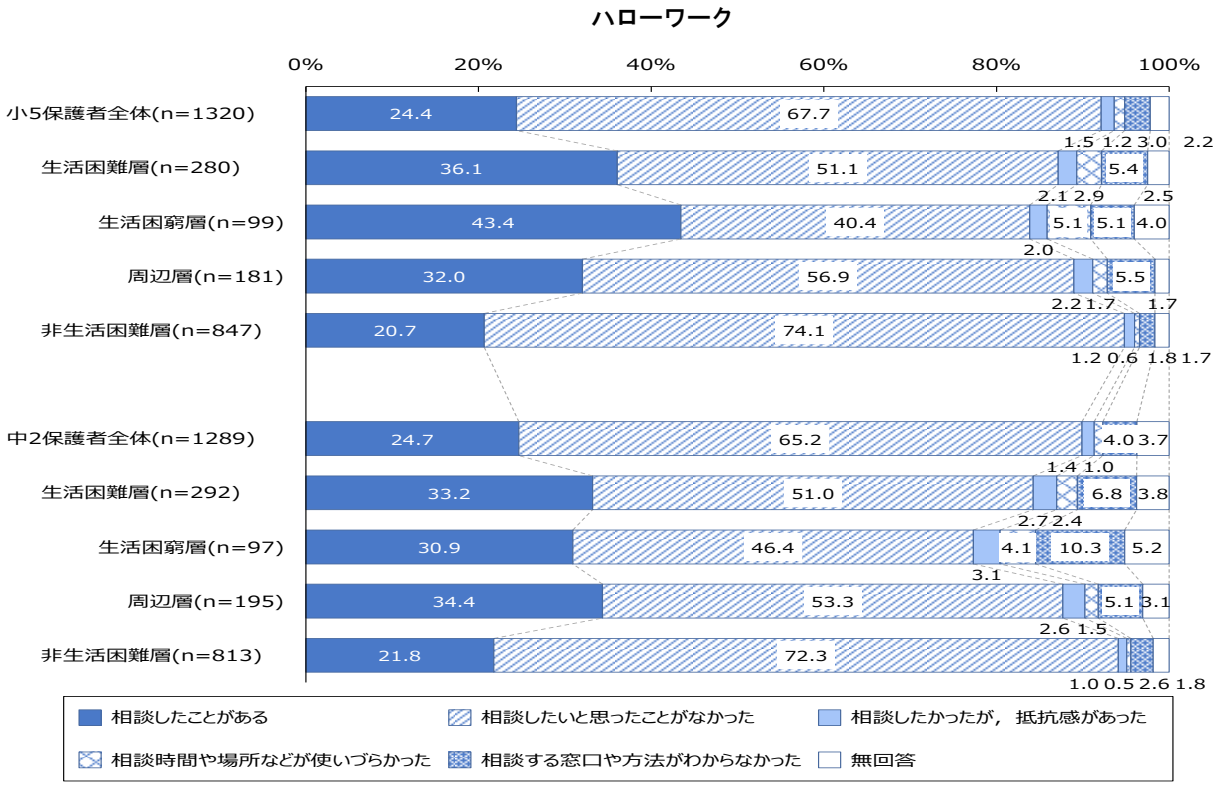


⑶　公的相談機関等の利用経験

公的相談機関等の利用経験について、県・市町の窓口に「相談したことがある」保護者の割合は、小学５年生では、全体で 13.0%、非生活困難層で 11.3%であるのに対し、生活困窮層では 21.2%、周辺層では 21.0%となっており、中学２年生では、全体で 13.5%、非生活困難層で 11.8%であるのに対し、生活困窮層では 25.8%、周辺層では 17.4%となっています。

また、ハローワークに「相談したことがある」保護者の割合は、小学５年生では、全体で 24.4%、非生活困難層で 20.7%であるのに対し、生活困窮層では 43.4%、周辺層では 32.0%となっています。中学２年生では、全体で 24.7%、非生活困難層で 21.8%であるのに対し、生活困窮層では 30.9%、周辺層では 34.4%となっており、非生活困難層に比べ生活困難層の利用経験が多くなっています。



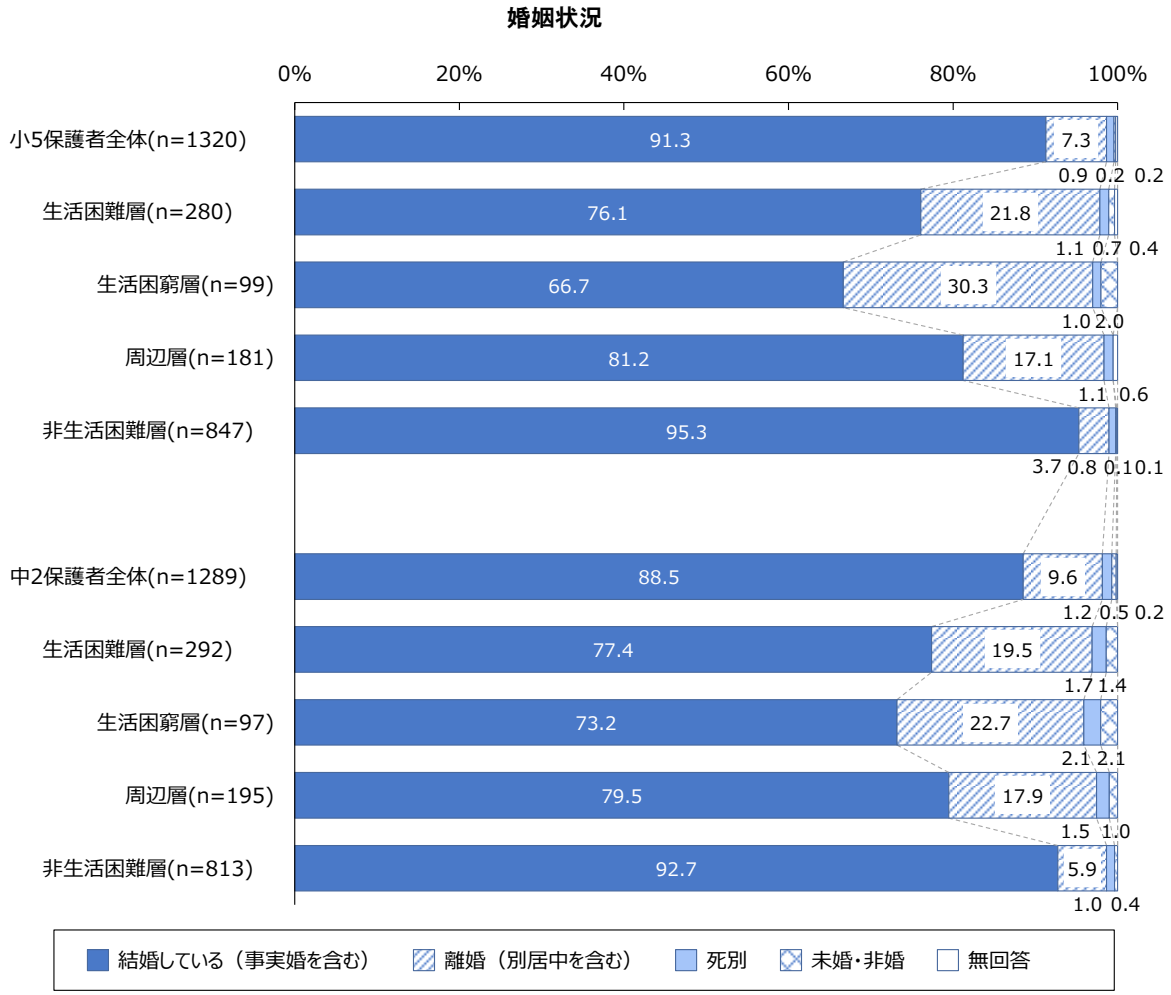


Ⅶ　保護者の状況

1　婚姻状況

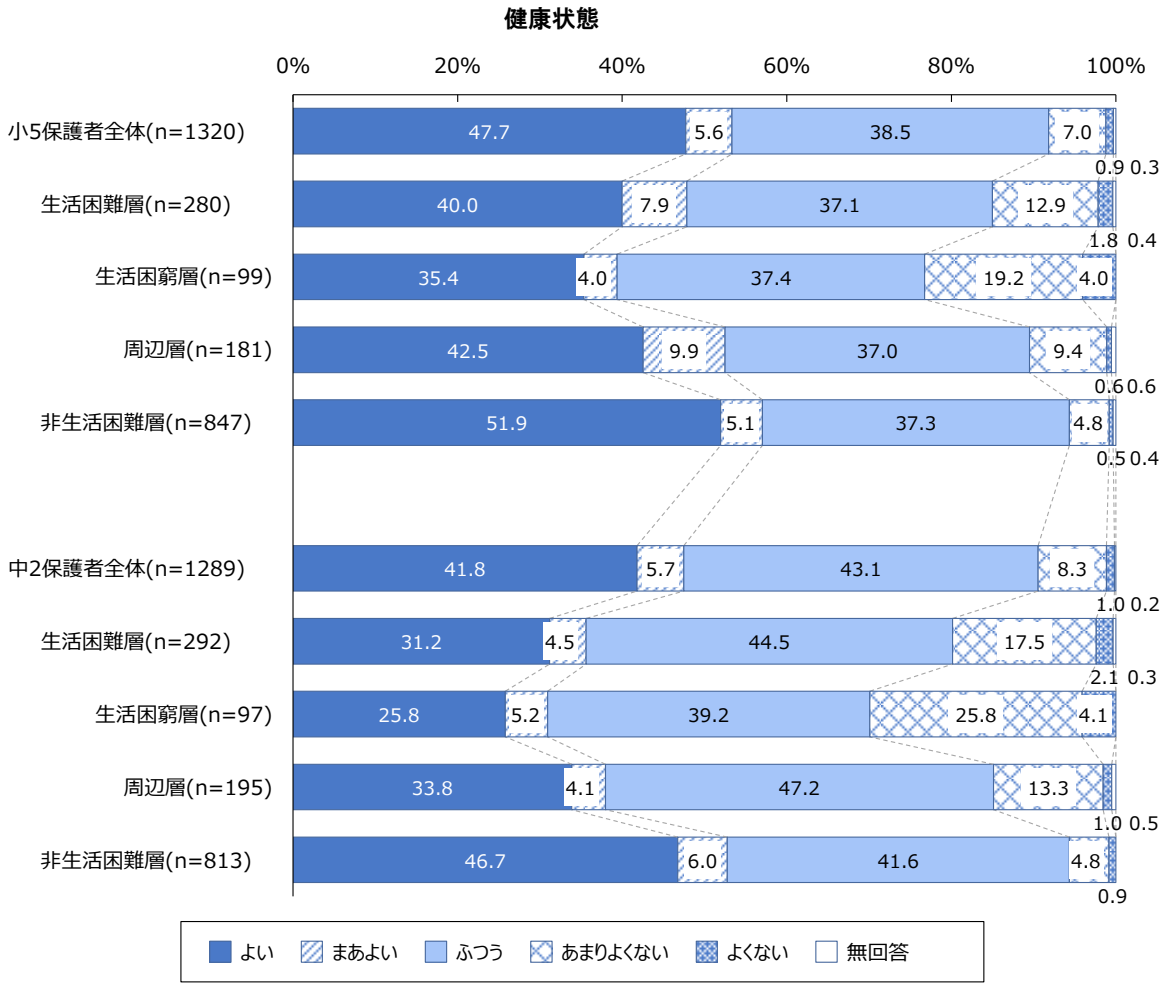
保護者（回答者）の婚姻状況について、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合は、小学５年生の保護者全体で91.3%、中学２年生の保護者全体で88.5%となっています。

一方、『結婚していない』（「未婚・非婚」、「死別」、「離婚（別居中を含む）」の計）と回答した割合は、小学５年生では、全体で 8.4%、非生活困難層で 4.6%であるのに対し、生活困窮層では 33.3%、周辺層では 18.2%となっています。また、中学２年生では、全体で 11.3%、非生活困難層で 7.3%であるのに対し、生活困窮層では 26.9%、周辺層では 20.4%となっており、生活困難度が高いほどひとり親世帯が多い傾向がみられます。



２　健康状態

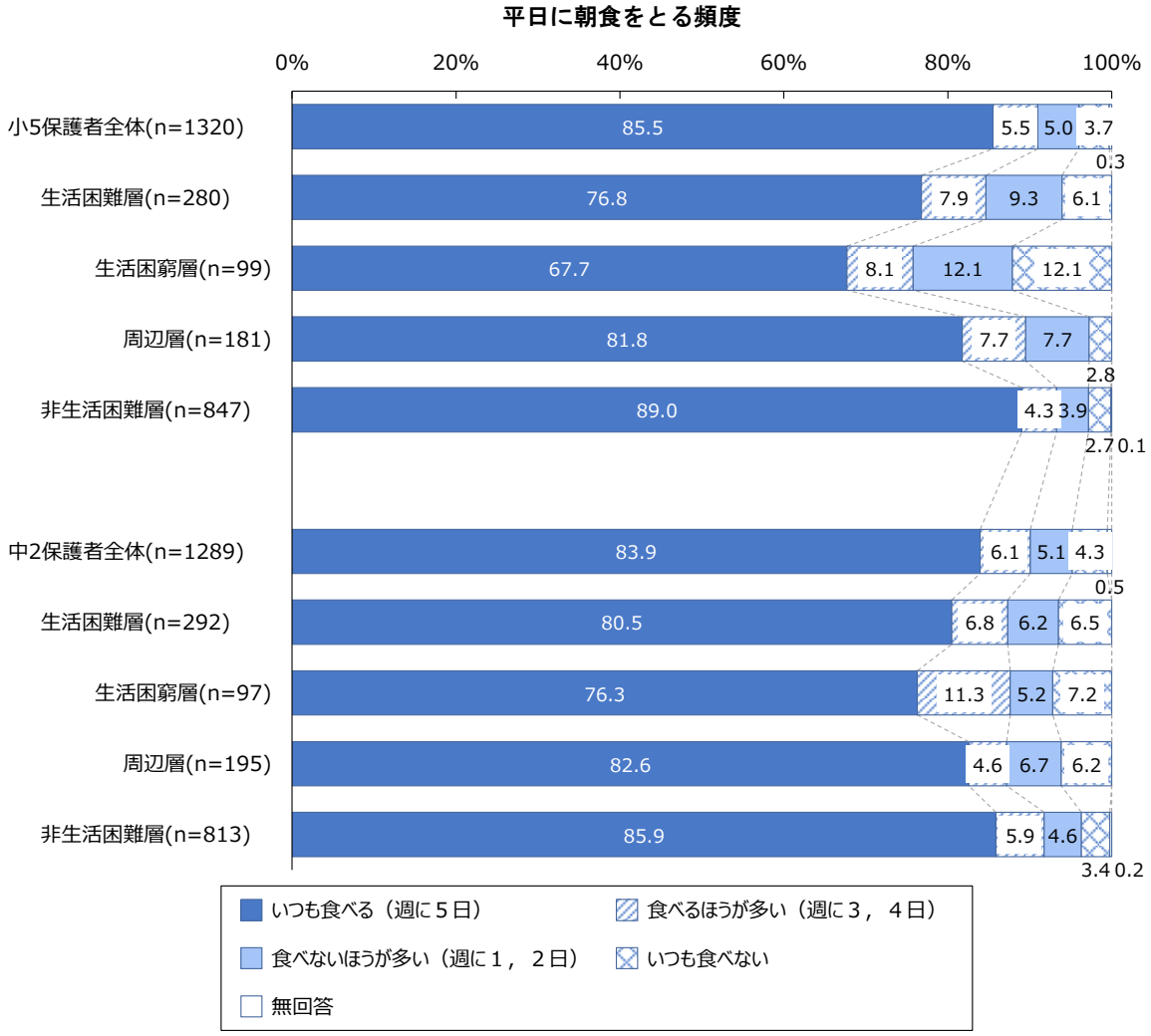
保護者の身体の健康状態について、『よくない』（「よくない」、「あまりよくない」の合計）と回答した割合は、小学５年生では、全体で 7.9%、非生活困難層で 5.3%であるのに対し、生活困窮層では 23.2%、周辺層では 10.0%となっています。また、中学２年生では、全体で 9.3%、非生活困難層で 5.7%であるのに対し、生活困窮層では 29.9%、周辺層では 14.3%となっており、生活困難度が高いほど身体の不調を抱える保護者が多い傾向がみられます。



３　平日の朝食の状況

⑴　平日に朝食をとる頻度

保護者が平日に朝食をとる頻度について、『毎日は食べない』（「いつも食べない」、「食べないほうが多い（週に１、２日）」「食べるほうが多い（週に３、４日）」の合計）と回答した割合は、小学５年生では、全体で14.2%、非生活困難層で10.9%であるのに対し、生活困窮層では32.3%、周辺層では18.2%となっています。また、中学２年生では、全体で15.5%、非生活困難層で13.9%であるのに対し、生活困窮層では23.7%、周辺層では17.5%となっており、生活困難度が高いほど朝食を食べない保護者の割合が高い傾向がみられます。

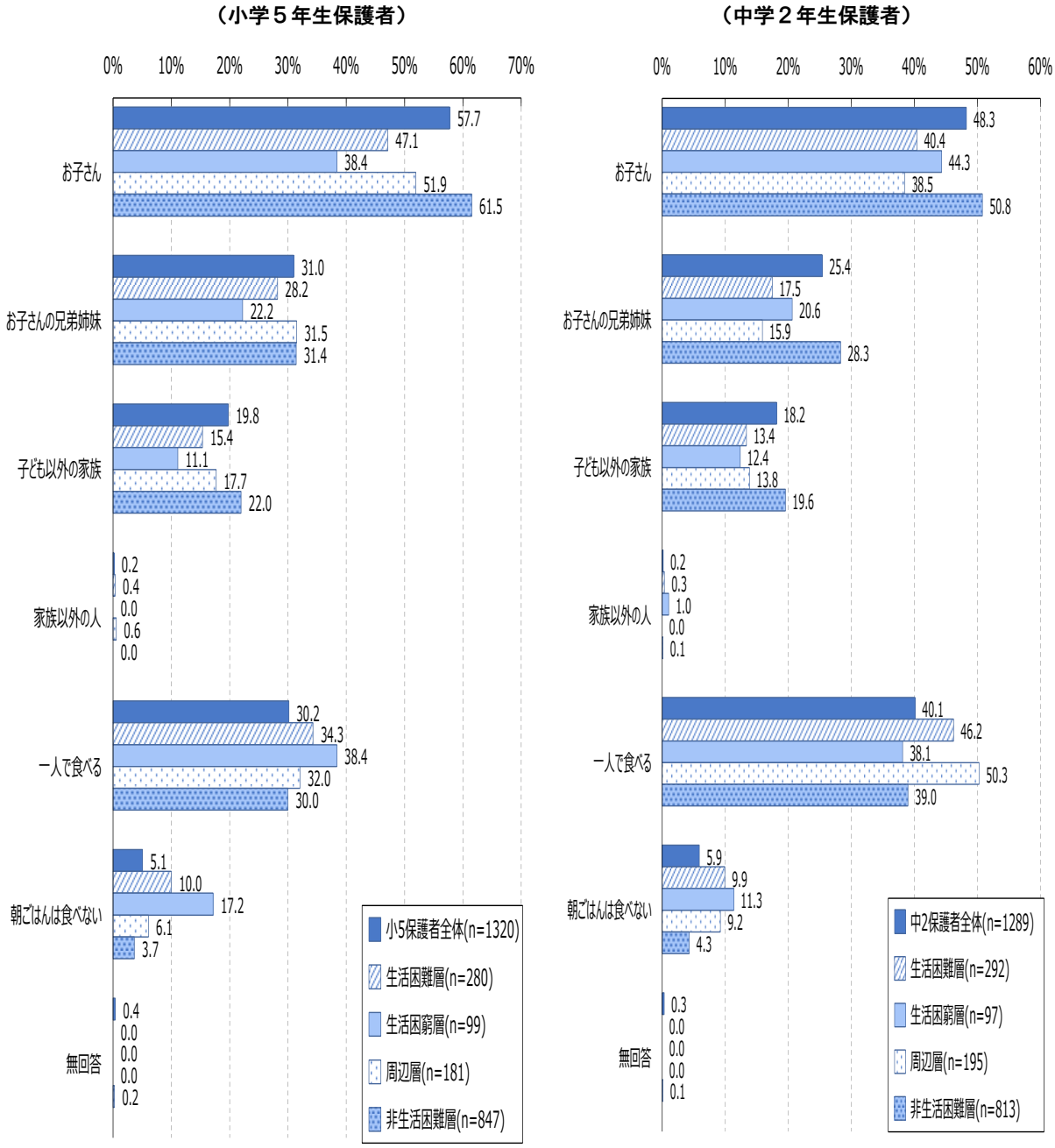


⑵　平日に朝食を一緒にとる人

保護者が平日に朝食を一緒にとる人について、「子ども」と回答した割合は、小学５年生では、全体で 57.7%、非生活困難層で 61.5%であるのに対し、生活困窮層では 38.4%、周辺層では 51.9%となっています。中学２年生では、全体で 48.3%、非生活困難層で 50.8%であるのに対し、生活困窮層では 44.3%、周辺層では 38.5%となっており、非生活困難層より生活困難層のほうが朝食を子どもと一緒に食べる割合が低くなっています。

また、「一人で食べる」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 30.2%、非生活困難層で 30.0%であるのに対し、生活困窮層では 38.4%、周辺層では 32.0%となっています。中学２年生では、全体で 40.1%、非生活困難層で 39.0%であるのに対し、生活困窮層では 38.1%、周辺層では 50.3%となっており、非生活困難層より生活困難層のほうが孤食の保護者の割合が高くなっています。

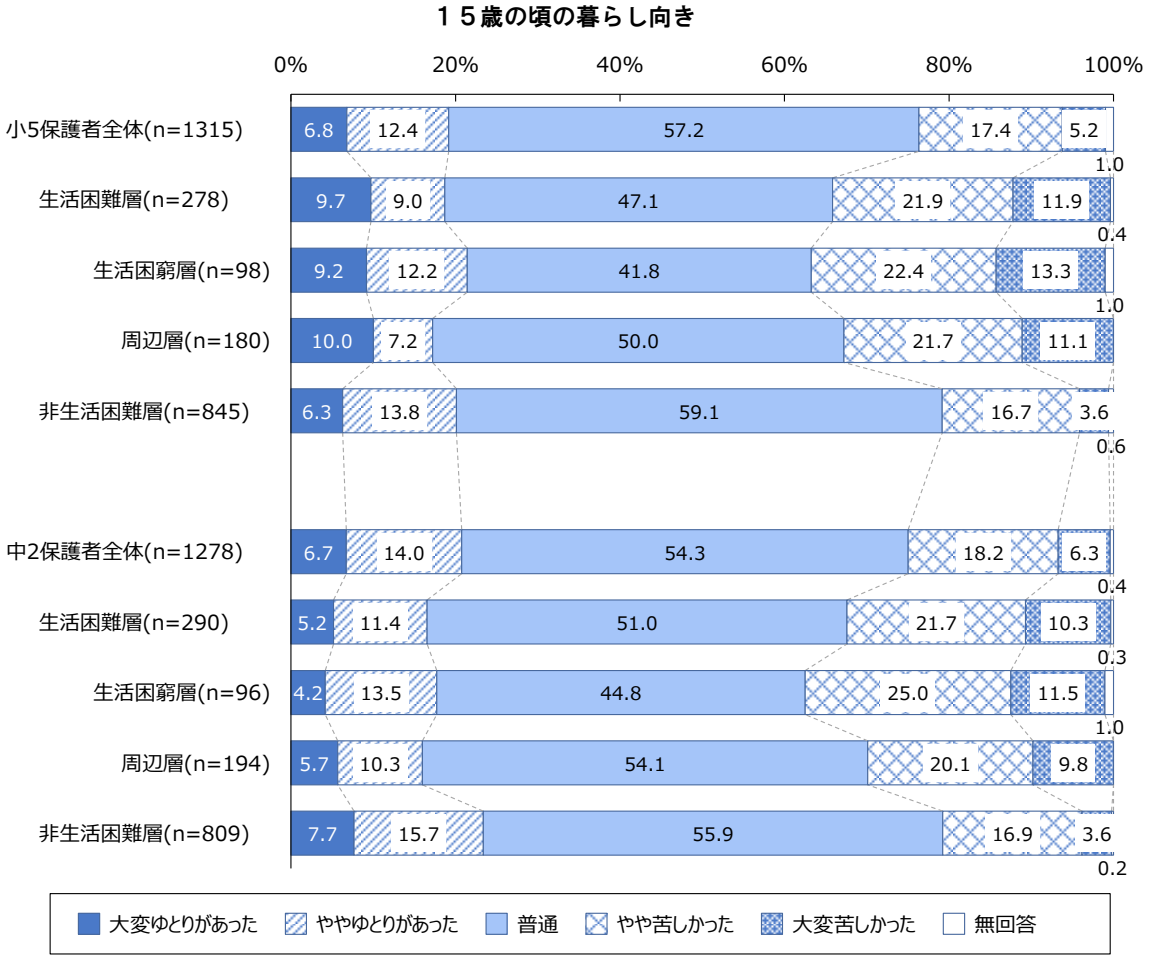
平日に朝食を一緒にとる人



4　成人するまでの経験

⑴　１５歳の頃の暮らし向き

保護者が１５歳の頃の暮らし向きについて、『苦しかった』（「大変苦しかった」「やや苦しかった」の合計）と回答した割合は、小学５年生では、全体で22.6%、非生活困難層で20.3%であるのに対し、生活困窮層では35.7%、周辺層では32.8%となっています。また、中学２年生では、全体で24.5%、非生活困難層で20.5%であるのに対し、生活困窮層では36.5%、周辺層では29.9%となっており、生活困難度が高いほど１５歳の頃の暮らし向きが苦しかった保護者の割合が高い傾向がみられます。



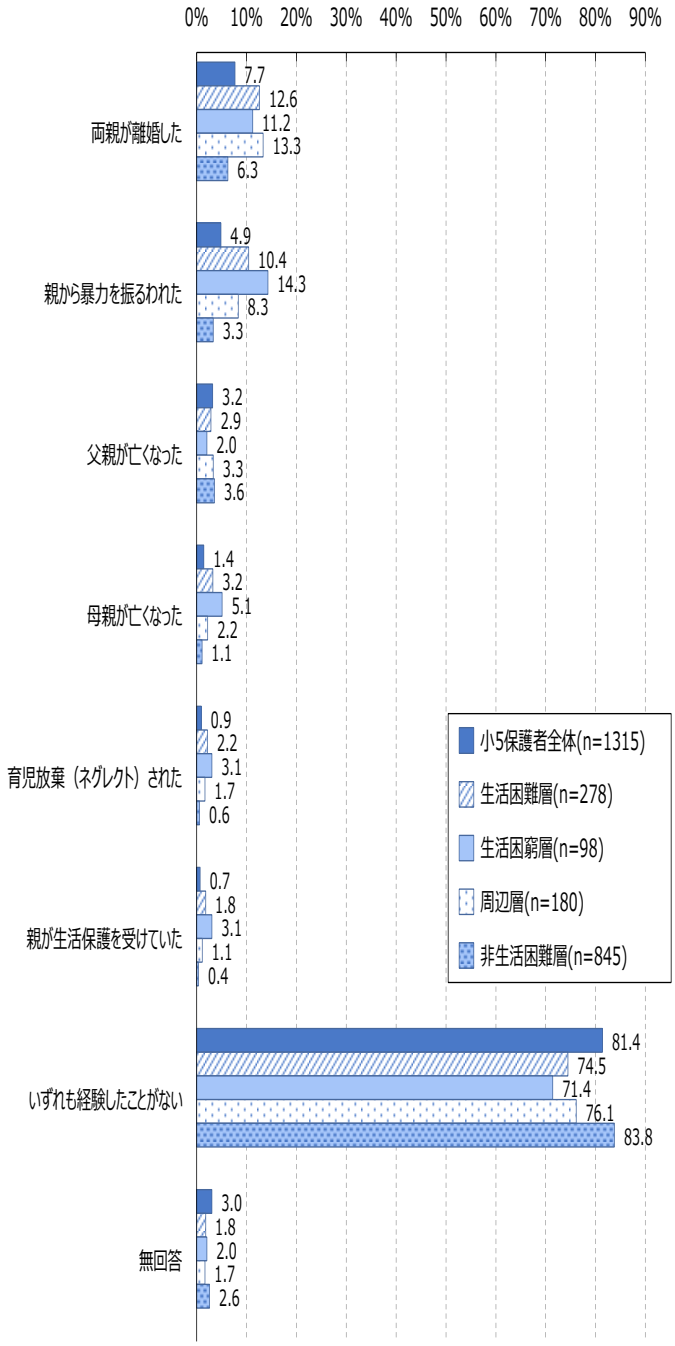
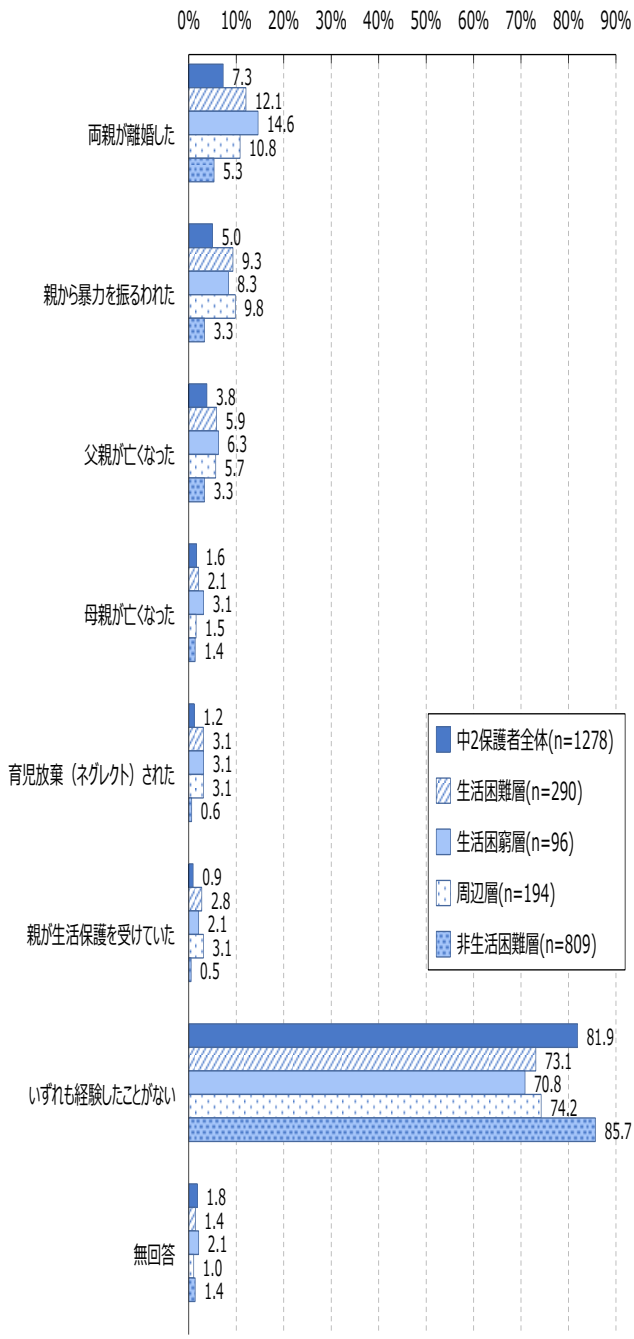
⑵　成人するまでの体験

成人するまでの保護者の体験について、「両親が離婚した」、「親から暴力を振るわれた」、「親が生活保護を受けていた」、「育児放棄（ネグレクト）された」、「母親が亡くなった」といった体験が「ある」と回答した割合は、小学５年生、中学２年生ともに、非生活困難層より生活困難層の方が高くなっています。特に、両親が離婚した経験が「ある」保護者の割合は、小学５年生では、全体で 7.7%、非生活困難層で 6.3%であるのに対し、生活困窮層では 11.2%、周辺層では 13.3%となっており、中学２年生では、全体で 7.3%、非生活困難層で 5.3%であるのに対し、生活困窮層では 14.6%、周辺層では 10.8%となっています。

また、親から暴力を振るわれた経験が「ある」と回答した保護者の割合は、小学５年生では、全体で 4.9%、非生活困難層で 3.3%であるのに対し、生活困窮層では 14.3%、周辺層では 8.3%となっており、中学２年生では、全体で 5.0%、非生活困難層で 3.3%であるのに対し、生活困窮層では 8.3%、周辺層では 9.8%となっています。

成人するまでの体験

（小学５年生保護者）



（中学２年生保護者）